

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県古河市

自治体名：茨城県古河市

担当課名：教育部 スポーツ振興課

電話番号：0280-22-5111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	124 km ²
人口	139,812 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	3,029 人
部活動数	112 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、古河市の運動部活動は、112部活(男子59部活、女子53部活)が活動している。

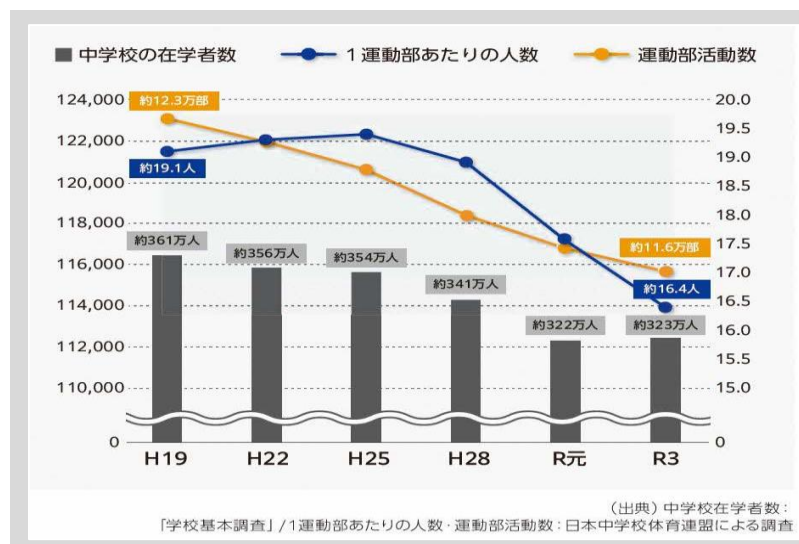
市内小中学校では生徒数の減少に伴い、部活動を生徒に望ましい形で継続していくことが厳しい状況にある。

生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保と、学校における働き方改革の実現を図る観点から、学校部活動を地域クラブ活動に段階的に移行していく。

古河市では休日(土・日・祝日)の部活動を段階的に地域クラブ活動へ移行する。

令和6年度から総和北中学校・三和中中学校・三和北中学校・三和東中学校のサッカー部が地域移行の取り組みを始める。

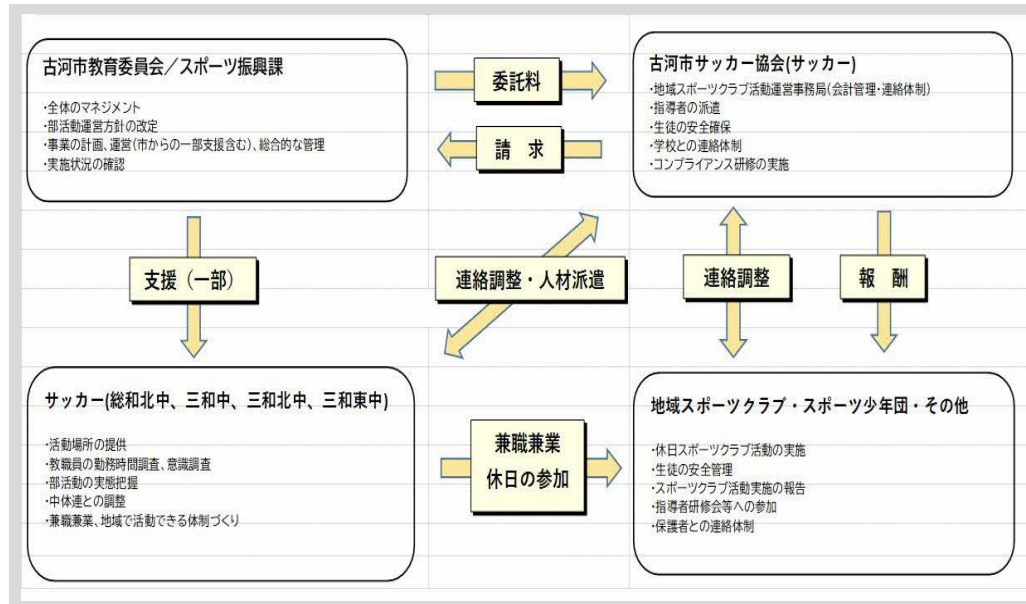
中学生の部活動は部活動数も部員も減少しており、このまま減少を続ければ、特にチーム競技は限界を迎える。
(全国的な問題)



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図(実証事業)



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育総務課・・・部活動改革の主幹、学校との調整・連携・学校に関する事項について
- ・指導課・・・学校との調整・連携・学校に関する事項について
- ・スポーツ振興課、文化振興課・・・中学生の地域スポーツ・文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・財政課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	学校説明
令和6年5月	第1回調整会議(サッカー)
令和6年7月	第2回調整会議(サッカー)
令和6年8月～	地域サッカークラブ活動の実施
令和6年11月	第1回推進協議会
令和6年12月	第3回調整会議(サッカー)
令和7年1月	アンケート
令和7年2月	第2回推進協議会
令和7年3月	第4回調整会議(サッカー)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	9校	実証事業を実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
サッカークラブ	サッカー協会	サッカー（新）	月 2 回（休日）	午前8時30分～ 午前11時30分	46人 （1年生26人、2年生20人）	R6.8月～R7.2月	小堤サッカー広場	4人	2人 （内、兼務2人）	1回300円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、活動実績(13回：延べ191名)

1回目：8/17(土) 30名 ①W-UP・アイスブレイク ②パス&コントロール ③ポジショニング ④ゲーム ※今回は「止める・蹴る」をテーマとしたトレーニング
2回目：8/21(水) 4名 Bridge of Dream Festival (古河市サッカー協会共催大会) 参加 ※1日目
3回目：8/22(木) 2名 Bridge of Dream Festival (古河市サッカー協会共催大会) 参加 ※2日目
4回目：9/14(土) 27名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人ドリブル ④ゲーム ※今回は「ドリブルの基本的技術の向上/ドリブルしながらプレーを判断する」をテーマとしたトレーニング
5回目：10/12(土) 16名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人ドリブル ④GKトレーニング ⑤ゲーム ※今回は「止める・蹴るの基本的技術の向上/スムーズに蹴るためのボールの置き所/足の使い方」をテーマとしたトレーニング
6回目：10/26(土) 16名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人ドリブル ④GKトレーニング ⑤ゲーム ※今回は「ドリブルの基本的技術の向上/ドリブルから次のプレーを判断する」をテーマとしたトレーニング
7回目：11/9(土) 16名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人ドリブル ④GKトレーニング ⑤ゲーム ※今回は「ボールを止める・蹴るの基本的技術向上/ボールの受け方(オフザボール)」をテーマとしたトレーニング
8回目：11/23(土) 8名 ①W-UP ②パス&コントロール ③シュートゲーム ④ゲーム ※今回は「ボールを止める・蹴るの基本的技術向上/ボールの受け方(オフザボール)」をテーマとしたトレーニング
9回目：12/7(土) 20名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人トレーニング ④ゲーム ※今回は「ドリブル時の次のプレーの判断/ドリブルの基礎的技術向上(復習)」をテーマとしたトレーニング
10回目：12/21(土) 22名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人トレーニング ④ゲーム(※希望者はGKトレーニング) ※今回は「ゴール前の攻防」をテーマとしたトレーニング
11回目：1/26(日) 10名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人トレーニング ④ゲーム(※希望者はGKトレーニング) ※今回は「運ぶ・状況判断」をテーマとしたトレーニング
12回目：2/2(日) 10名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人トレーニング ④ゲーム(※希望者はGKトレーニング) ※今回は「ドリブルの判断・ボールの持ち方の判断」をテーマとしたトレーニング
13回目：2/16(日) 10名 ①W-UP ②ドリルトレーニング ③対人トレーニング ④ゲーム(※希望者はGKトレーニング) ※今回は「運ぶ・状況判断」をテーマとしたトレーニング

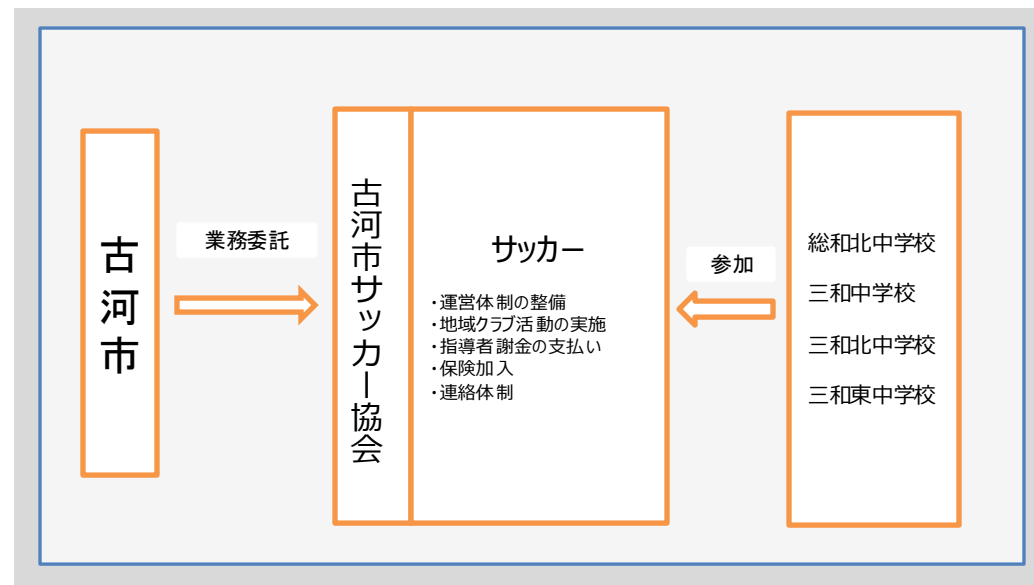
2.実証内容と成果

主な取組例

● R6実証事業 地域スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	古河市サッカー協会 (古河市地域サッカークラブ)
期間と日数	R6.8月7日 ～ R7.2月16日 月2回程度 (計13回)
指導者の主な属性	古河シティFC (古河市サッカー協会)
活動場所	小堤サッカー広場 他
主な移動手段	自転車 自家用車(保護者等による送迎)
1人あたりの参加会費等 (1回)	サッカー：300円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

● 主任指導者 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

● 指導・運営補助者 3名

役割：活動において、主任指導者の補助として指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行うコーディネーターを1名配置し、中学校・関係団体・市教育委員会との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

○参加者管理、会費徴収、参加者・保護者・指導者への連絡、会場の確保・調整、会計業務を行う。

取組の成果

○コーディネーターを運営団体に配置したことにより、中学校・関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○アプリの活用により、参加者・保護者・指導者への連絡体制が円滑に行うことができた。

また、利用者アンケートの結果、回答者の約90%の満足度を得ることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

○合計181h ※会場確保、参加者管理、指導者・保護者への連絡調整など
R6.5月(3h)、R6.6月(8h)、R6.7月(11h)、R6.8月(31h)、
R6.9月(10h)、R6.10月(18h)、R6.11月(24h)、R6.12月(28h)、
R7.1月(17h)、R7.2月(31h)

今後の課題と対応方針

○公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指導等を実施する必要がある。

○コーディネート業務を担う人材の発掘・育成・資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修会の内容

○指導者等に対して、資質の向上を含めた研修の開催はできなかったが、持続可能な運営体制を構築するためにアンケートを実施した。

人材バンクの人数

・人材バンク制度は実施なしのため 0名

人材バンクの年齢構成

・人材バンク制度は実施なし

種目

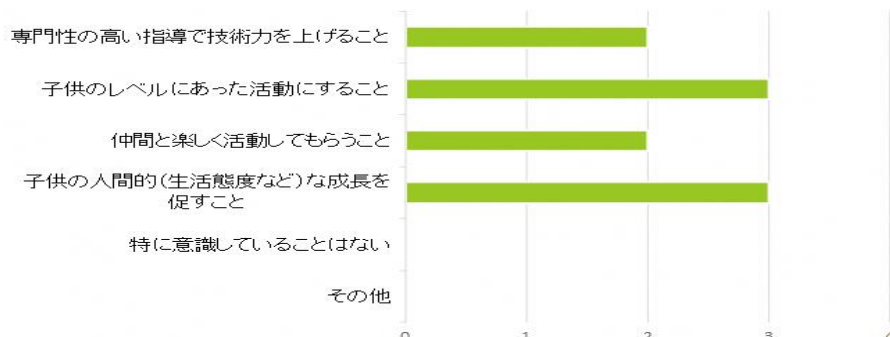
・サッカー

資格有無

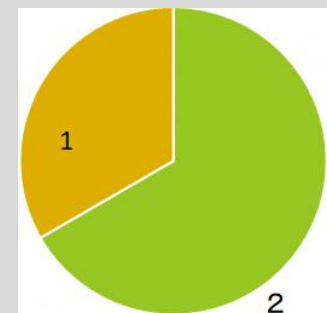
・サッカー協会加盟団体の指導者資格あり

指導者アンケートの結果

どのようなことを意識しながら地域サッカークラブの実証事業活動での指導にあたっていますか。あてはまるものをすべて回答してください。

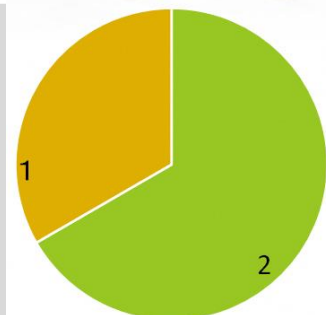


スポーツ指導に関わる資格を取得する予定はありますか。



■すでに取得している
■取得中/取得予定である
■取得する予定はない

審判資格を取得する予定はありますか。



■すでに取得している
■取得中/取得予定である
■取得する予定はない

出典：古河市地域サッカークラブ アンケート調査

今後の課題と対応方針

○アンケート結果を踏まえて、指導者研修を必須とするか検討し、今後どの水準まで質を求めるかについては、検討する必要がある。

○平日と休日の指導者間の効率的・効果的な連携方策について検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため
中学校の校長会やスポーツ協会、
スポーツ少年団、スポーツ推進
委員会等において、市の取り組
み及び今後の見通し等の説明を
実施した。

取組の成果

○中学校校長会やスポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会等において説明し、協力を求めることで、市内中学校のすべての生徒や関係団体に事前周知やチラシの配布を行うことができた。

○地域のスポーツ団体(市サッカー協会)の協力を得て、当日運営の補助を行った。

○各運営主体が活動するときは、指導者が競技種目の指導のみに集中できるよう、会場の施錠や事前準備、参加者の出欠確認などを行う運営補助を市サッカー協会で行い、地域一体となって運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めた。

バスの運行実績

・実績なし

バスの運航経費・収入

・実績なし

今後の課題と対応方針

○競技団体や総合型地域クラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。

○運営の効率化を図るため、引き続きアプリを活用した運営の周知を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

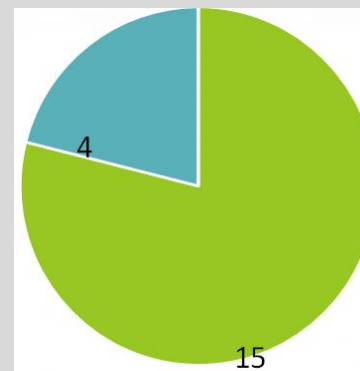
○R6実証事業に係る「アンケート調査」を実施し、生徒ニーズの把握に努めた。

○R6実証事業に参加した中学生46名人を対象としたアンケートの結果、回答者の100%が、「地域サッカークラブ実証事業の活動は指導が充実している」、「自分に取り組んでいる競技に対する興味や意欲は増した」という結果となった。

活動の詳細

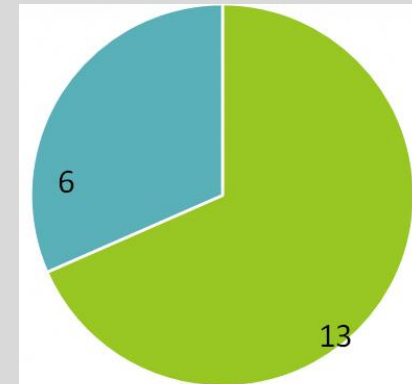
- ・活動実績 13回
- ・参加人数 計46名(延べ191名)
- ・指導者数 計4名

指導が充実していますか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

自分に取り組んでいる競技(サッカー)に対する興味や意欲は増しましたか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

出典：古河市地域サッカークラブ アンケート調査

今後の課題と対応方針

○中学生を対象としたアンケート結果によると、「R6実証事業の活動にどれくらい参加していますか」という回答に、半分以上に参加しているという中学生が60%となった。また、「次年度(R7)も参加したいですか」という回答

に、90%の中学生が次年度も参加したいと回答した。

引き続き、参加する中学生の拡充を図りながら、地域一体となって運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行っていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行った。

地域クラブに係る経費 (913,556円)

■イニシャルコストの分析

・事務用品 (3,322円)

■ランニングコストの分析

・指導者謝金 (230,400円)
・交通費 (17,760円)
・消耗品費 (613,084円)
・雑役務費 (140円)
・保険料 (48,850円)

持続的な運営に必要な受益者負担額

○受益者負担 (57,300円) ※1回300円

①8/17(土) 300円×30人=9,000円

②8/21(水) 300円×4人=1,200円

③8/22(木) 300円×2人=600円

④9/14(土) 300円×27人=8,100円

⑤10/12(土) 300円×16人=4,800円

⑥10/26(土) 300円×16人=4,800円

⑦11/9(土) 300円×16人=4,800円

⑧11/23(土) 300円×8人=2,400円

⑨12/7(土) 300円×20人=6,000円

⑩12/21(土) 300円×22人=6,600円

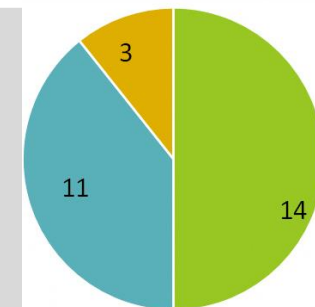
⑪1/26(日) 300円×10人=3,000円

⑫2/2(日) 300円×10人=3,000円

⑬2/16(日) 300円×10人=3,000円

収支バランス

現在の地域サッカークラブ実証事業活動に支払う参加費 (1回300円) は妥当だと感じますか。



■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない

出典：古河市地域サッカークラブ アンケート調査

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支構造を3つに分けて検証を行った。

・「スポーツ活動費(保険料)」については、生徒の保護者等や指導者自らが負担するべきものとする。

・「スポーツ活動費(消耗品費)」、「事務局運営費」については、クラブが準備するもの、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源等を活用する。

・「スポーツ活動費(消耗品費、保険料除く)を受益者の対象に検証を行っていくこととする。

○受益者負担の設定額においては、R6実証事業では「1回参加すること」に負担する方法で検証した結果、「1回参加するごと」に負担を求めると参加率が低調なこともあって、受益者負担の額が非常に大きくなるとともに、収益の見込みがつかないことから、運営主体において持続可能な運営は困難になると思われる。

		決算額	割合	
スポーツ活動費	諸謝金	230,400	23%	⇒ ★受益者負担
	旅費・交通費	17,760	2%	⇒ ★受益者負担
	消耗品費	616,406	61%	⇒ 公費負担
	雑役務費	140	0%	⇒ ★受益者負担
スポーツ活動費(保険料)	保険料	48,850	5%	⇒ 自己負担
事務局運営費	一般管理費	90,000	9%	⇒ 公費負担
総 計		1,003,556	100%	

出典：R6古河市地域サッカークラブ 収支内訳

今後の課題と対応方針

○スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時に不安定であるといえる。

○低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず企業の協賛や行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行った。

○合同部活動を実施している中学校を訪問し、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

○合同部活動を実施している中学校を訪問し、理解を深めることで学校との繋がりを深めることができた。
※次年度以降の活動場所の理解を得ることができた。

○R6実証事業の活動場所については、全13回の活動(練習会)において公共施設(サッカー広場)を使用したが、次年度以降は「学校施設」も取り入れながら、「公共施設」とともに活用していくことにする。

今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に部活動が行われている学校もあることから、引き続き、学校や教育委員会に部活動と実証事業の活動が競合しないよう、事業趣旨の理解等を求めていくこととする。

○今後、部活動の地域移行に伴い、地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境を整えるため、学校体育施設の利用調整に係る業務を運営主体に委託する方向で調整する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組（次年度の実証事業）

取組事項

○古河市が設定した目標「令和9年度末までに休日に教職員が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する」を実行するため、次年度の実証事業について、中学校の校長会と調整(選定)を行った。

※R6.7/9、R6.8/1、R7.1/9

○中学校の校長会より決定された該当する中学校と運営主体を集め、事業への協力及び施設の利用等についての調整を行った。

取組の成果

○古河市が設定した目標年度(令和9年度末)までに「休日部活動を地域移行する」ため、令和7年度においてもコーディネーターの配置を含む運営団体、実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等に関する実証事業(国10/10)を活用し、古河市の地域移行を順次進めていくことになった。

○校長会に市内中学校(運動部・文化部)「令和7年度実証事業の候補となる中学校及び部活動の種目の選出」を依頼した結果、「サッカー(継続)/野球(新規)」に決定した。

今後の課題と対応方針

○実証事業開始 R7年5月～(サッカー)
※継続(参加生徒の拡充を図ることが課題である)

○実証事業開始 R7年8月～(野球)
※新規(学校・生徒・保護者等の理解と協力が課題である)

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○古河市では休日(土・日・祝日)の部活動を段階的に地域クラブ活動へ移行すめため、中学校の校長会やスポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会等において、市の取り組み及び今後の見通し等の説明を実施した結果、令和6年度から総和北中学校・三和中学校・三和北中学校・三和東中学校のサッカー部が地域移行の取り組みを始めた。

○古河市が設定した目標年度(令和9年度末)までに「休日部活動を地域移行する」ため、令和7年度においてもコーディネーターの配置を含む運営団体、実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等に関する実証事業(国10/10)を活用し、古河市の地域移行を順次進めていくことになった。

※校長会に市内中学校(運動部・文化部)「令和7年度実証事業の候補となる中学校及び部活動の種目の選出」を依頼した結果、「サッカー(継続)/野球(新規)」に決定した。

●成果の評価

○令和6年度から実施した実証事業(サッカー)を取り組み、生徒・保護者・教員・指導者からアンケートを行った結果、約8割の生徒から自分に取り組んでいる競技に対する興味や意欲が増して満足度を図ることができた。

○古河市が目標年度として掲げている「令和9年度末までに休日部活動を地域移行する」ために取り組む課題等も見えてきたため、令和6年度に実証事業を開始することができたことは評価できる。

●今後に向けて

○運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを段階的に増やし、市の目標年度(令和9年度末)までに「休日部活動を地域移行する」ため、R7年度においてもコーディネーターの配置を含む運営団体、実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等に関する実証事業(国10/10)を活用し、古河市の地域移行を順次進めていく。

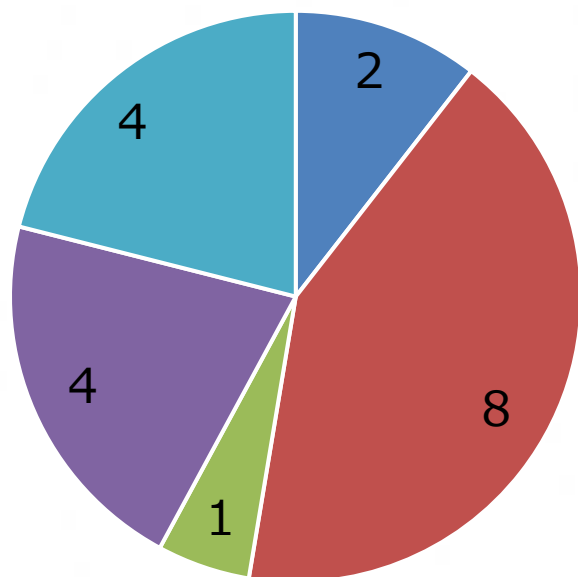
2.実証内容と成果②

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【生徒】



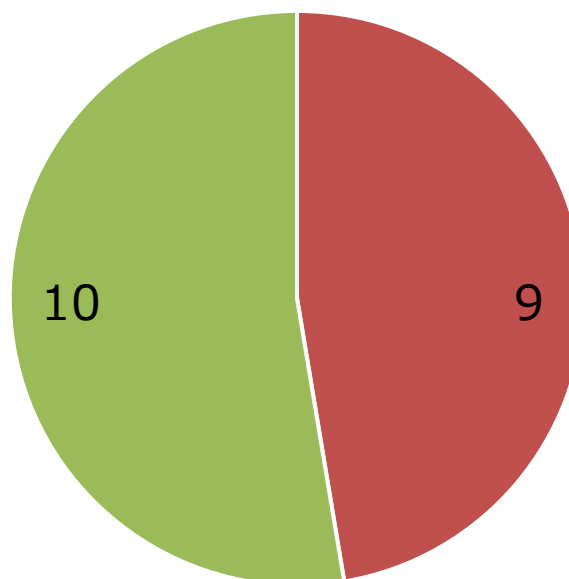
アプリ登録者46名 回答者19名（41.3%） ※令和7年1月末現在

地域サッカークラブ実証事業の活動にどれくらい参加していますか。



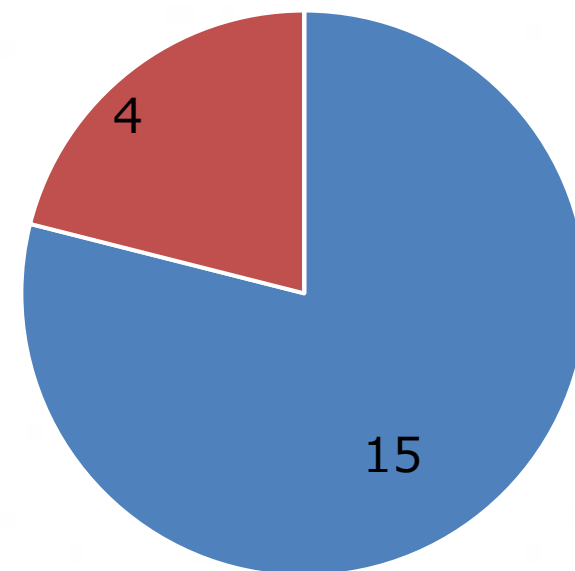
- 毎回参加している(9割以上)
- だいたい参加している(7～8割程度)
- 半分くらい参加している(4～6割程度)
- あまり参加していない(2～3割程度)
- ほとんど参加していない(1割以下)

地域サッカークラブ実証事業の活動場所までの移動手段は何ですか。



- 徒歩
- 自転車
- 自家用車(保護者等による送迎)
- その他

地域サッカークラブ実証事業の活動は、指導が充実していますか。



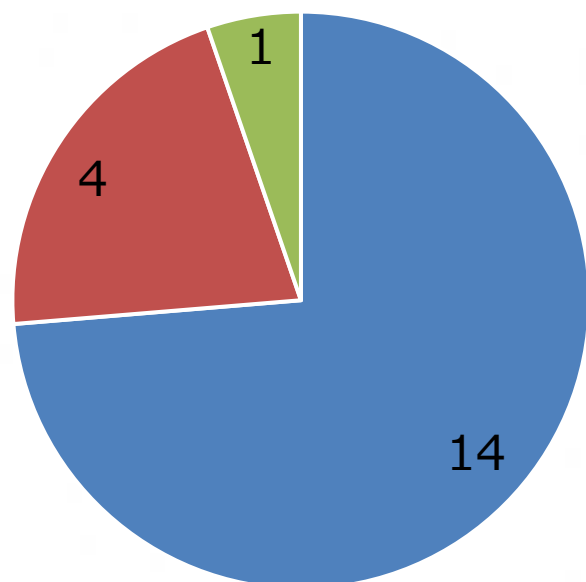
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【生徒】



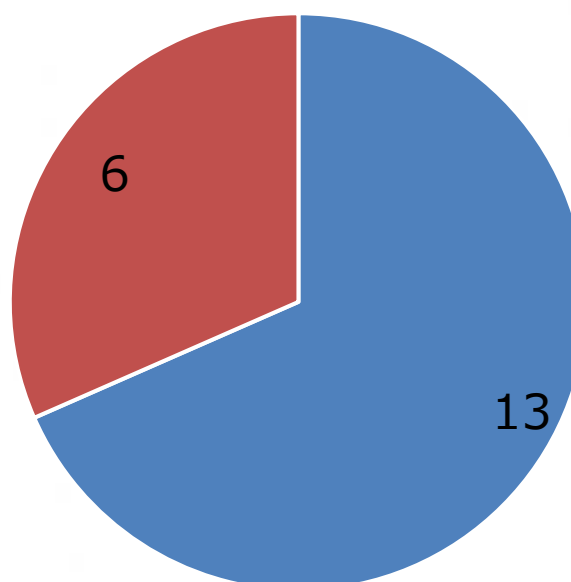
アプリ登録者46名 回答者19名（41.3%） ※令和7年1月末現在

地域サッカークラブ実証事業の活動は体力や技術の向上につながっていますか。



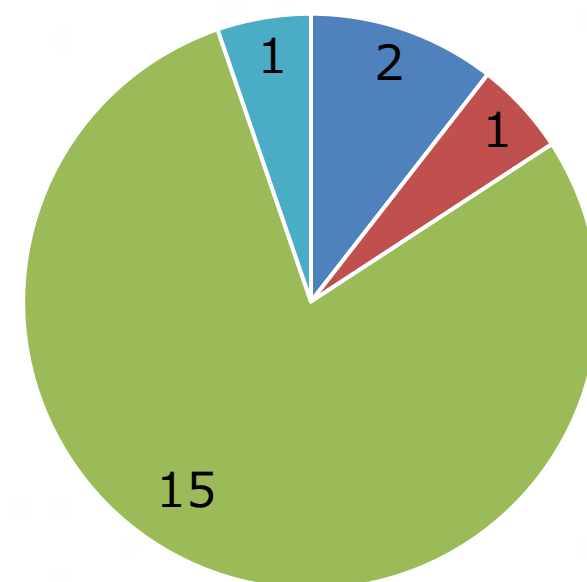
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

地域サッカークラブ実証事業の活動により、自分が取り組んでいる競技（サッカー）に対する興味や意欲は増しましたか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

現在の地域サッカークラブ実証事業の活動回数（月2回）は、どのように感じていますか。



- 多いと思う
- どちらかといえば多いと思う
- ちょうど良いと感じる
- どちらかといえば少ないと思う
- 少ないと思う

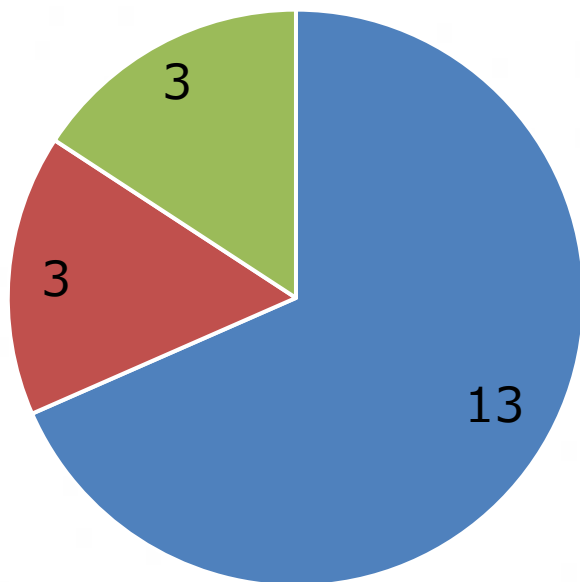
R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【生徒】



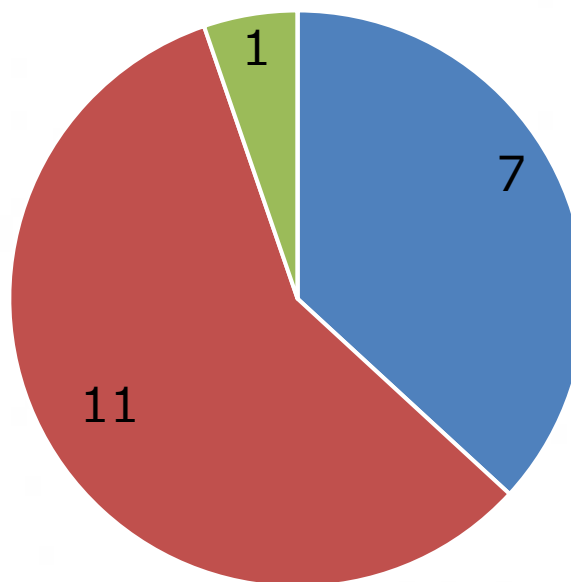
アプリ登録者46名 回答者19名（41.3%） ※令和7年1月末現在

現在、地域サッカークラブ実証事業の周知方法として使用している「部活アプリ」の機能は使いやすいと思いますか。

地域サッカークラブの実証事業活動を、次年度（R7年度）も参加したいですか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



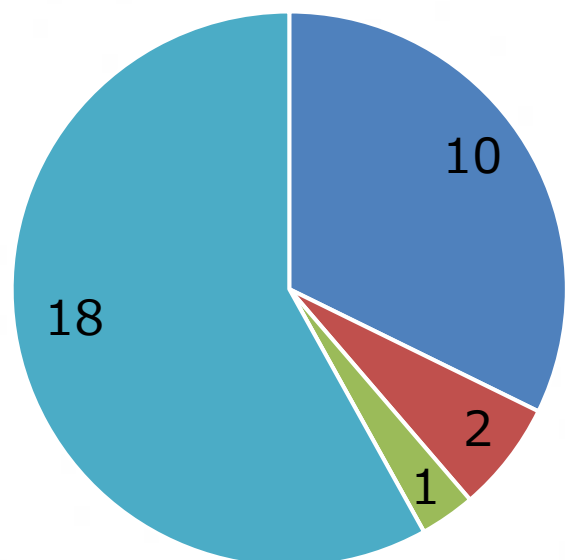
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【保護者】



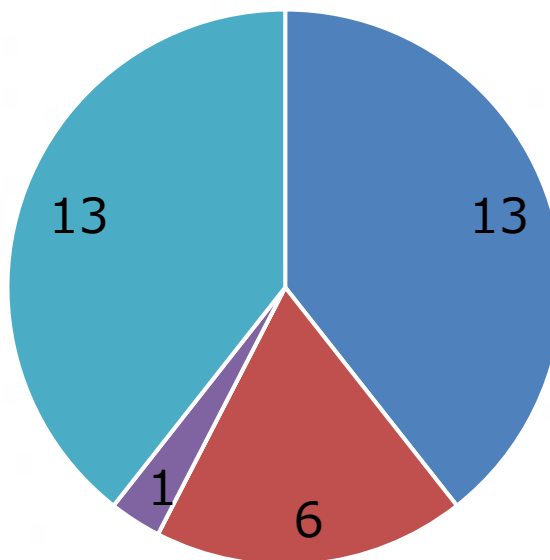
アプリ登録者40名 回答者28名（70%） ※令和7年1月末現在

お子さんが地域サッカークラブの実証事業活動に参加するようになったことで、「新たに発生したもの」として当てはまるものをすべて教えてください。



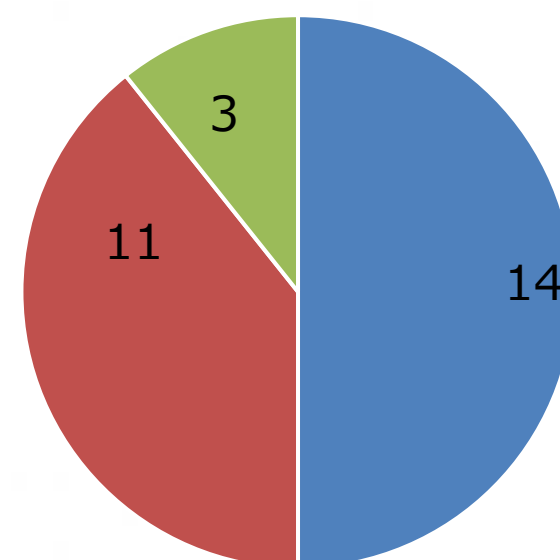
- 活動への送迎（自身のお子さんのみ）
- 活動への送迎（自身のお子さん以外も含めて）
- 活動への参加（見学/見守り）
- 保護者会への参加
- 特に発生しているものはない

お子さんが地域サッカークラブの実証事業活動に参加するようになったことで、「引き続き発生しているもの」として当てはまるものをすべて教えてください。



- 活動への送迎（自身のお子さんのみ）
- 活動への送迎（自身のお子さん以外も含めて）
- 活動への参加（見学/見守り）
- 保護者会への参加
- 特に発生しているものはない

現在の地域サッカークラブ実証事業活動に支払う参加費（1回300円）は妥当だと感じますか。



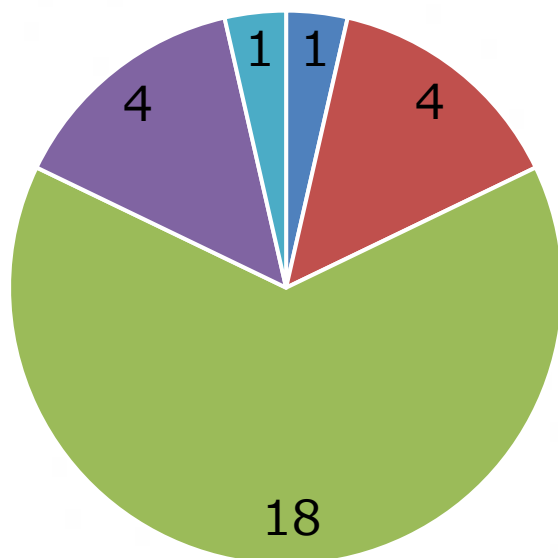
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【保護者】



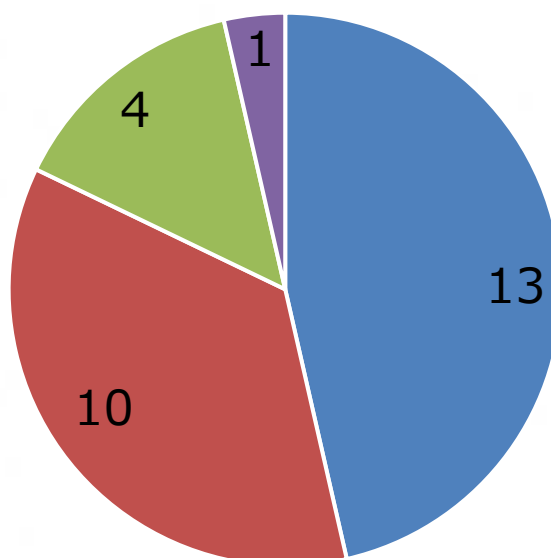
アプリ登録者40名 回答者28名（70%） ※令和7年1月末現在

現在の地域サッカークラブ実証事業の活動回数（月2回）は、どのように感じていますか。



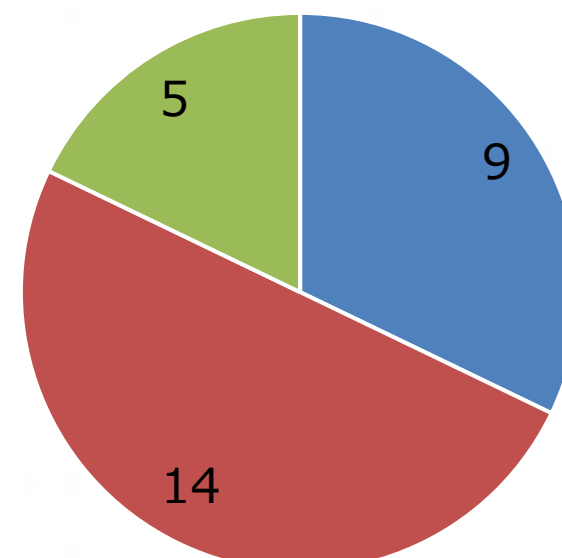
- 多いと感じる
- どちらかというとも多いと感じる
- ちょうど良いと感じる
- どちらかというとも少ないと感じる
- 少ないと感じる

現在、地域サッカークラブ実証事業の周知方法として使用している「部活アプリ」の機能は使いやすいと思いますか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

現在の地域サッカークラブ実証事業の活動回に対する満足度を教えてください。



- 満足している
- どちらかというとも満足している
- どちらかというとも不満である
- 不満である

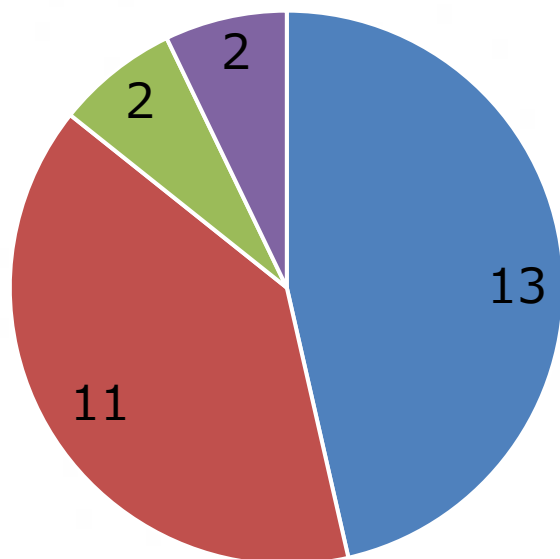
R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【保護者】



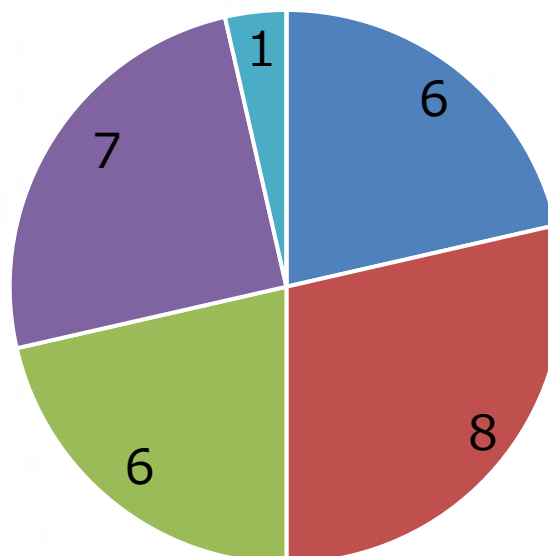
アプリ登録者40名 回答者28名（70%） ※令和7年1月末現在

地域サッカークラブの実証事業活動を、次年度（R7年度）も参加したいですか。

お子さんの学校以外の教育（学習塾/習い事）にかける1ヵ月あたりの平均支出はどのくらいですか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



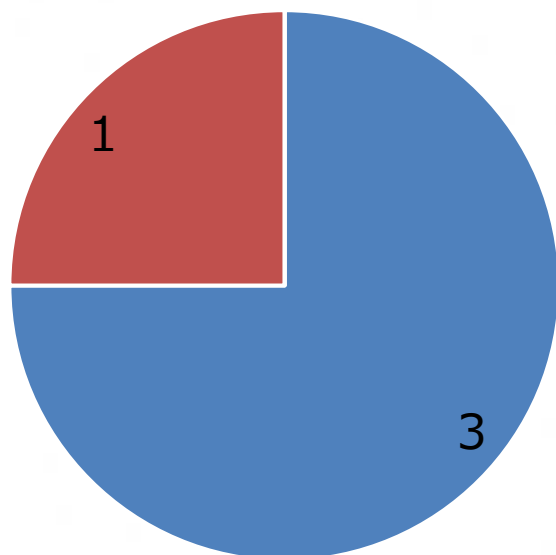
- 0円
- 1円以上5,000円未満
- 5,000円以上10,000円未満
- 10,000円以上20,000円未満
- 20,000円以上30,000円未満
- 30,000円以上

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【教員】



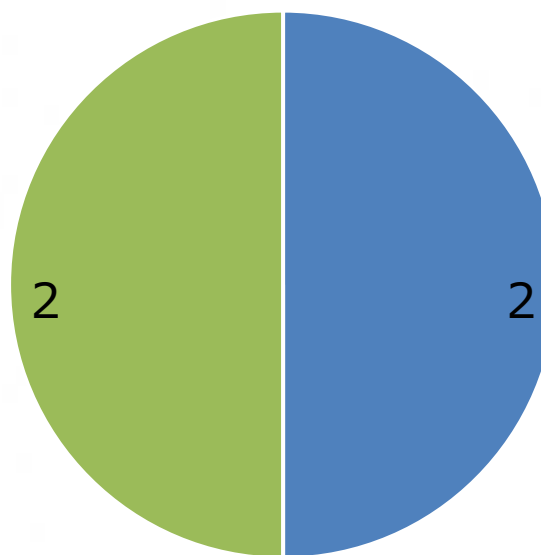
アプリ登録者4名 回答者4名（100%）※令和7年1月末現在

あなたのスポーツ実施歴として、もっともあてはまるものを回答してください。



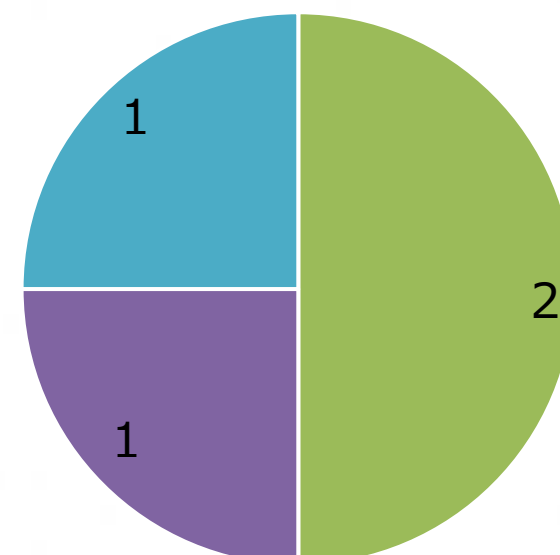
- 顧問を務める種目を実施している
- 顧問を務める種目は実施していなかったが、多種目を実施していた
- スポーツは実施していなかった

あなたはスポーツ指導にかかわる資格を取得していますか。



- 取得している
- 現在資格を取得していないが取得予定である
- 取得予定はない

地域サッカークラブの実証事業活動により、学校教員として実施する学校部活動の業務量に変化はありましたか。



- 増えた
- やや増えた
- 変わらない
- やや減った
- 減った

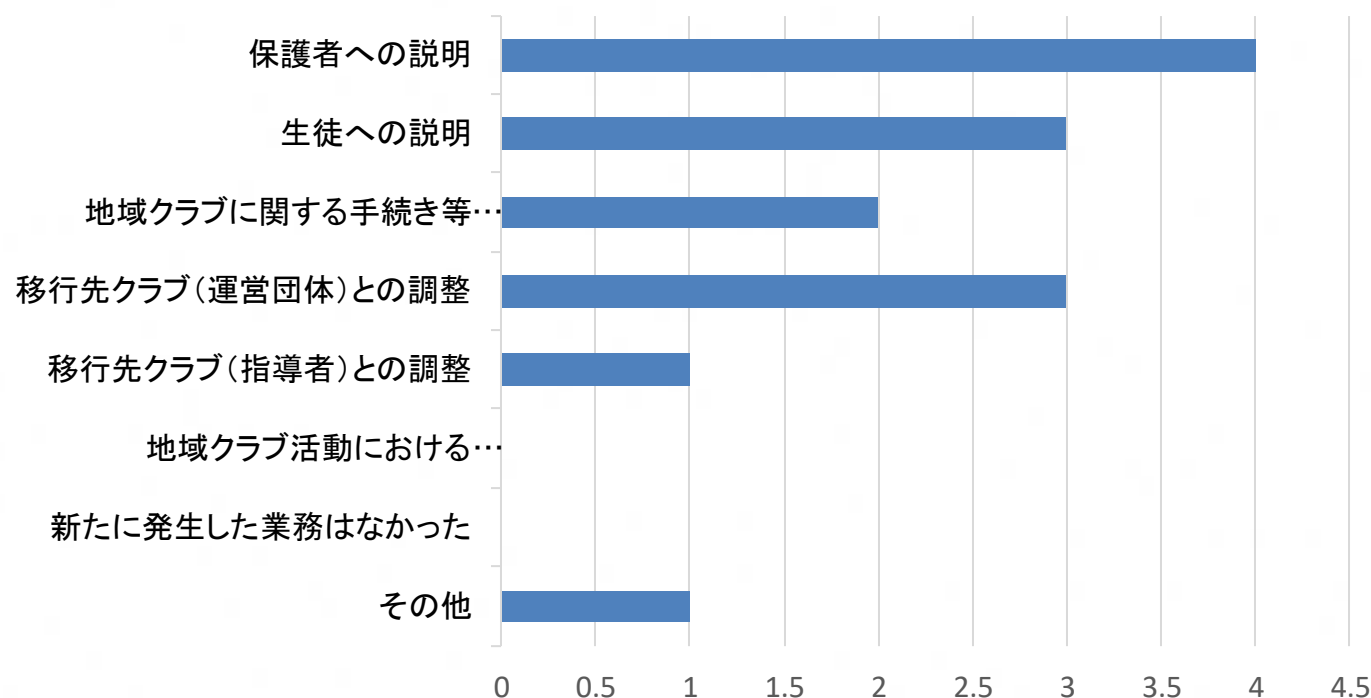
R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【教員】



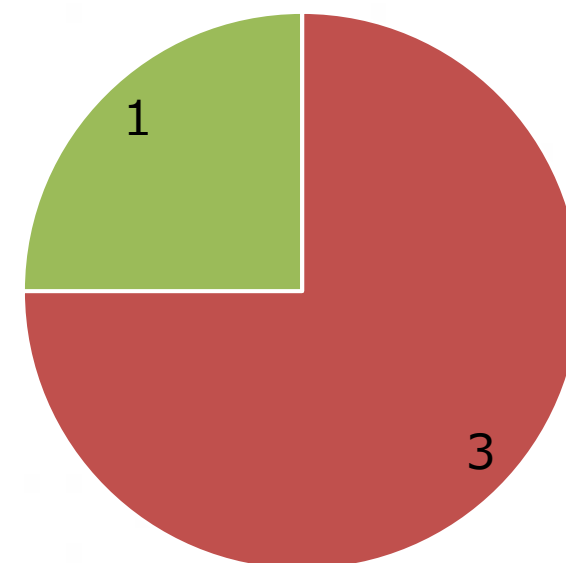
アプリ登録者4名 回答者4名（100%）※令和7年1月末現在

地域サッカークラブの実証事業への移行に伴って、新たに発生した業務としてあてはまるものをすべて回答してください。

部活動の地域クラブ活動への移行に対する満足度を教えてください。



その他：合同チームなので土日の活動を地域クラブへ移行すると合同練習の時間を取ることが難しく、ただ大会や練習試合をこなすだけになってしまう。



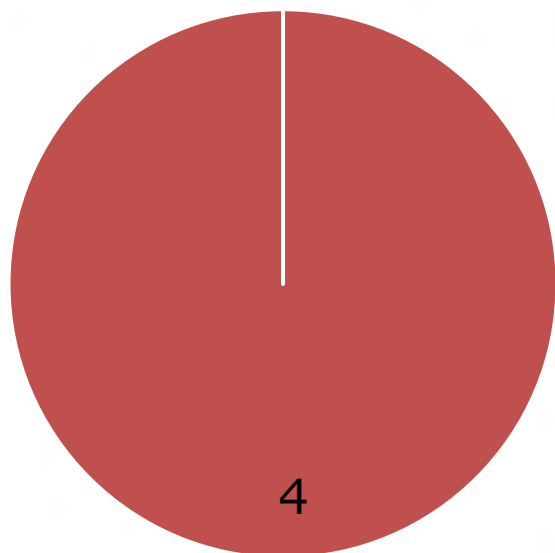
- とても満足している
- どちらかといえば満足している
- どちらかといえば不満である
- とても不満である

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【教員】



アプリ登録者4名 回答者4名（100%）※令和7年1月末現在

現在、地域サッカークラブ実証事業の周知方法として使用している「部活アプリ」の機能は使いやすいと思いますか。



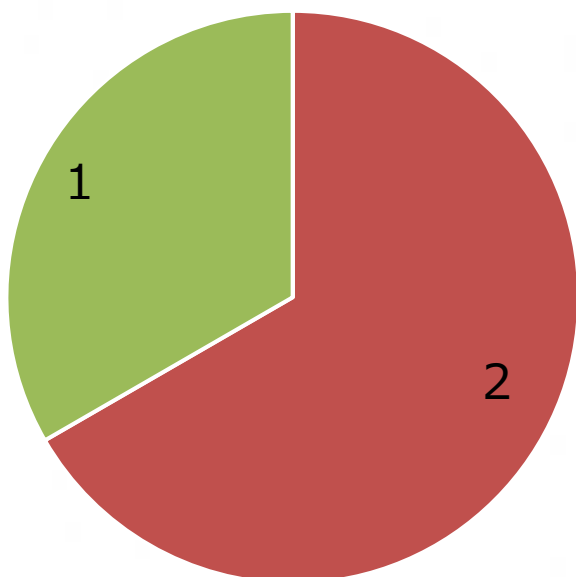
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【指導者】



アプリ登録者 4 名 回答者 3 名（75%）※令和7年1月末現在

地域サッカークラブの実証事業活動の指導者報酬（1h/1,600円）は、妥当な金額だと思いますか。



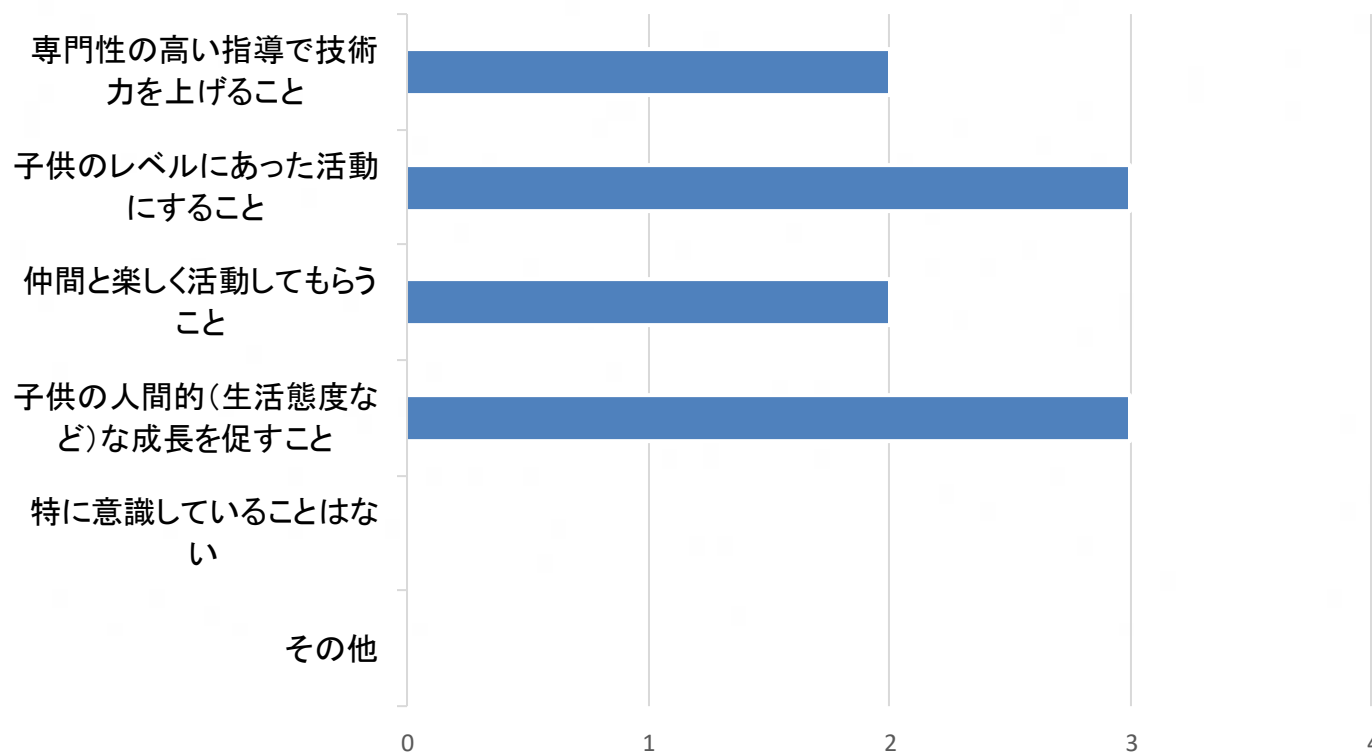
■ そう思う

■ どちらかといえばそう思う

■ どちらかといえばそう思わない

■ そう思わない

どのようなことを意識しながら地域サッカークラブの実証事業活動での指導にあたっていますか。あてはまるものをすべて回答してください。

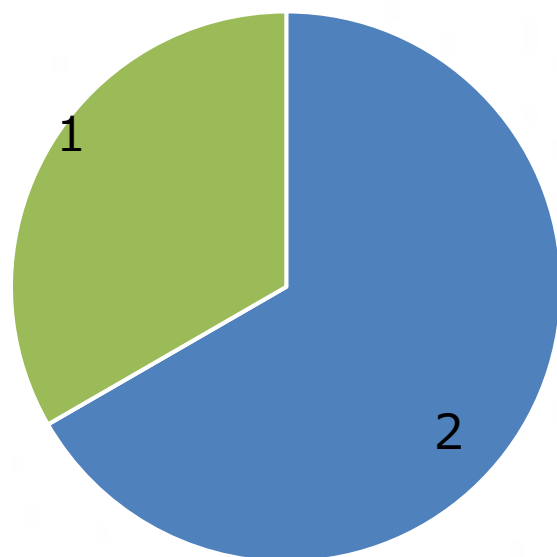


R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【指導者】



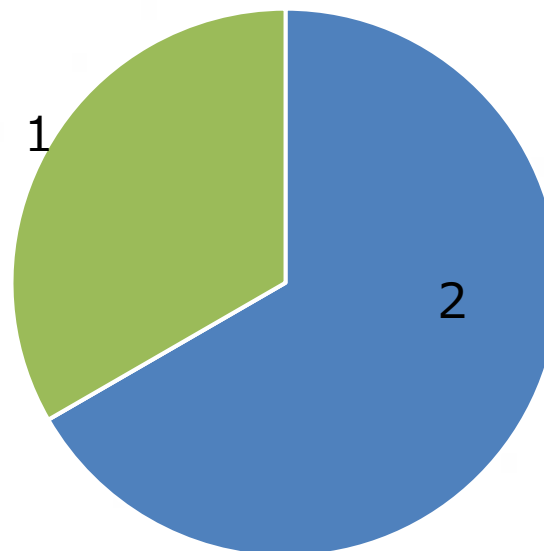
アプリ登録者4名 回答者3名（75%）※令和7年1月末現在

スポーツ指導に関わる資格を取得する予定はありますか。



- すでに取得している
- 取得中/取得予定である
- 取得する予定はない

審判資格を取得する予定はありますか。



- すでに取得している
- 取得中/取得予定である
- 取得予定はない

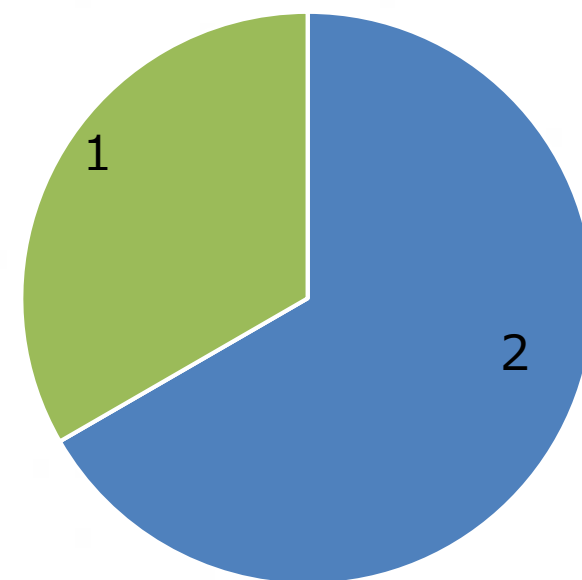
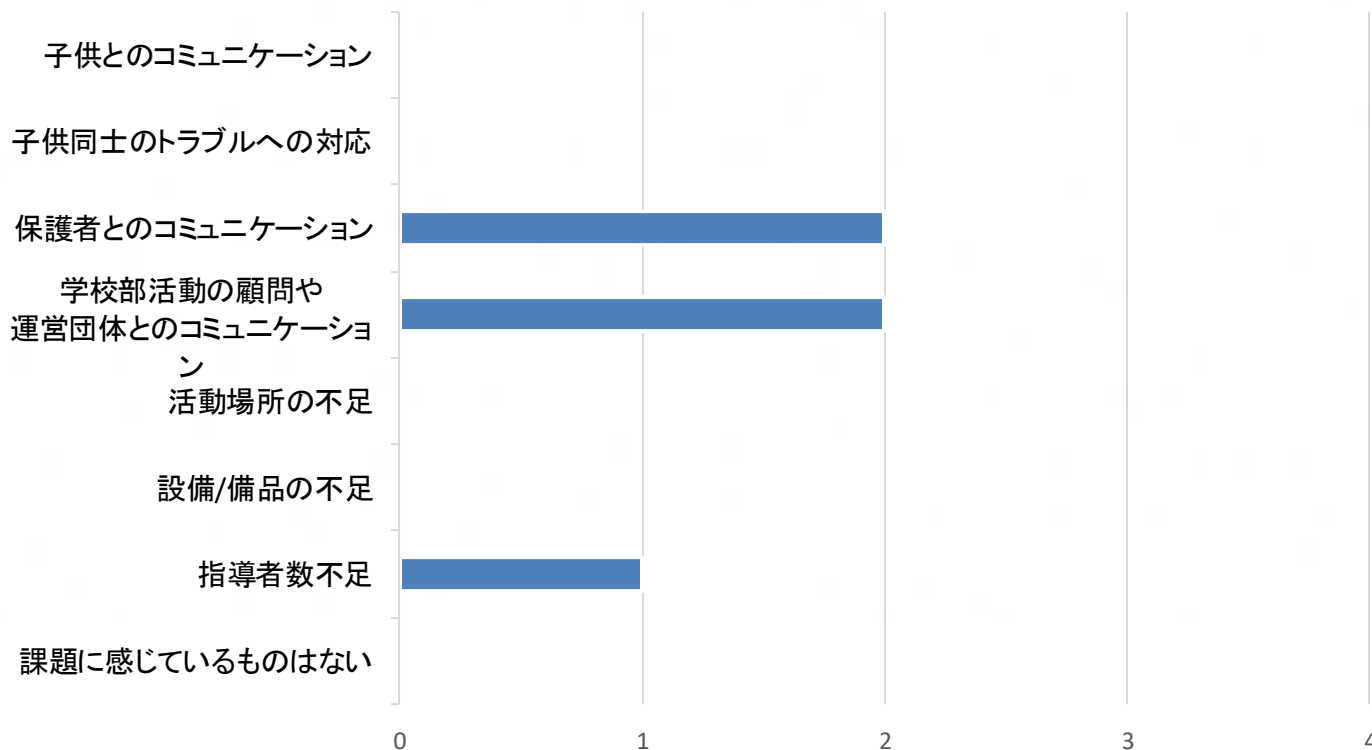
R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【指導者】



アプリ登録者 4 名 回答者 3 名（75%） ※令和 7 年 1 月末現在

課題に感じているものをすべて回答してください。

現在、地域サッカークラブ実証事業の周知方法として使用している「部活アプリ」の機能は使いやすいと思いますか。



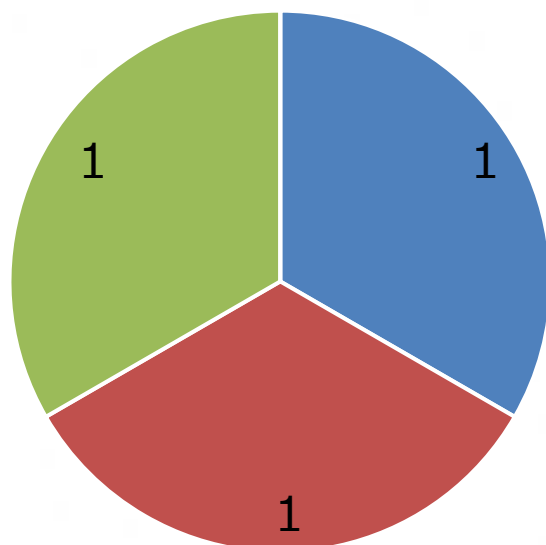
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

R 6 実証事業（地域サッカークラブ） アンケート結果【指導者】



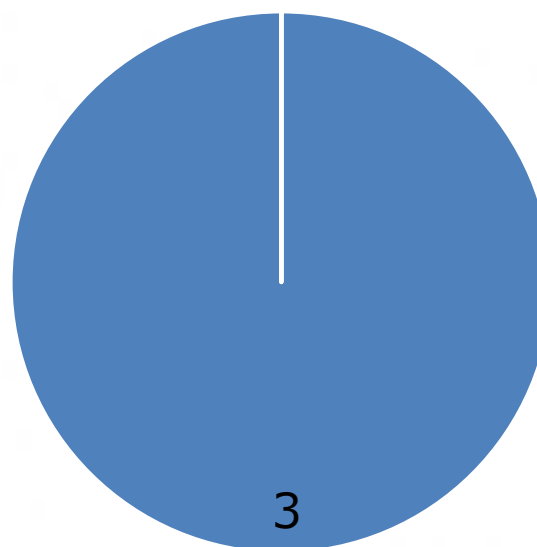
アプリ登録者4名 回答者3名（75%） ※令和7年1月末現在

あなたは、現在の地域サッカークラブの実証事業活動に満足していますか。



- とても満足している
- どちらかといえば満足している
- どちらかといえば不満である
- とても不満である

今後も継続して指導を行いたいですか。



- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

R 6 実証事業（地域サッカークラブ）アンケート結果



地域サッカークラブの実証事業活動に対して、ご意見等があれば記入ください。

【生徒】

- ・他の中学校にも拡大してほしい。

【保護者】

- ・これから他の中学校にも拡大しつつ、古河市も「土日の部活動は廃止」する方針を早い時期にだしてほしいです。
- ・指導にあたるコーチの皆様には、お忙しい中市内の生徒たちにご指導いただきまして、感謝しております。
- ・以前、用事があって休んだ時に、次に来なかったら先生に言うと言われたことがあったようで(子どもの話なので詳細は不明ですが)、学校からは強制ではないと説明を受けていたのに、このようなことがあり、不愉快と感じました。どうせやるなら、楽しい活動であって欲しいし、子どもたちにも、また行きたいと思わせるような努力も必要かもしれませんね。現状、そうは思っていないようです。
- ・人数の少ない中学校なので、地域クラブで他の中学生のお友達との関わりがあるのは、とてもありがたいです。以前見学した際、短時間でも練習内容や指導法等、学校での部活の良さとはまた違い、とても良かったと感じました。
- ・子供が地域クラブの活動に参加することを、あまり歓迎していないようなので、活動内容の変更をしてはどうかと思います。

R 6 実証事業（地域サッカークラブ）アンケート結果



地域サッカークラブの実証事業活動に対して、ご意見等があれば記入ください。

- ・平日の学校での部活動との兼ね合い(指導方法、試合を見据えたチームとしての個々の連携など)をもっと方針を定めてほしいなと思います。サッカーは特にチームスポーツなので、地域移行での練習がどのように活かせるのか、子供たちが部活動と地域移行それぞれの活動で混乱するような事がなければいいなと思っています。地域移行の活動費については、今後負担が増えるようなら、部費も変わらず集金されていますのでそこから捻出、または部費を減額するなどの対応もありかと思います。部費に関しては各中学校での判断かもしれませんが…ある程度地域移行の方から指針を示して頂けると話し合いやすいです。
- ・先生方の負担を減らすための取り組みとして専門家に指導して頂き、個の能力を高めチームに貢献すると良いと思いますが子供達に意図が伝わっていない様に感じます。部活が休みの日という位置付けなような…。人数が少ないから仕方ないのでかもしれませんが学校単位で出来たなら参加率もあがり、各学校のチーム力が上がるのかもしれないと。これが土日全てになるとますます部活離れがすすむような気がします。せっかくの良い取り組みなので子供達の為に上手く機能してくれたらと。勝手言ってすみません
- ・顧問の先生が未経験の方もいると思うのでこれからも練習を見てもらえると個々のレベルアップにつながると思うので続けていただきたいです。
- ・部活は部活で有り続けて欲しい。学校の部活で得る感動や喜びもあると思う。
- ・送迎に関してですが、何回開催するのか未定でしょうが、とにかく親の負担となるので各々中学校でバス、ワゴン車等確保して先生が乗せていけばいいと思います。個人で送迎したい、送迎できる人は個人で送迎すればいいと思います。通常ならば、学校で部活動するものが総和のグラウンドでやるのだから、古河市で切り替わるのであれば、古河市で検討願いたい。

R 6 実証事業（地域サッカークラブ）アンケート結果



地域サッカークラブの実証事業活動に対して、ご意見等があれば記入ください。

【教員】

- ・地域移行に向けて、古河市内の中学校全校でやらなければ意味がないと思います。単独でできるので参加しませんでしたと足並みが揃わないのでどうなのかと思います。
- ・古河市の地域移行の実現のために、まずはサッカー部の地域移行が古河市全体に広がることを願います。

【指導者】

・様々な学校の子も達と一緒にトレーニングする上でコミュニケーションをとる場、技術向上の場としては良いと思っている。ただ、子ども達が目指す目標値のズレに差があると感じています。高校サッカーに繋がるために励んでる子どもがいれば、遊びの延長で参加している子どもがいたり方向性をどこに定めるかが難しいと感じています。今後も規模を大きくしていくにつれて上記の点もさらに感じてくる部分ではあると思います。また、保護者への理解も必要だと思います。部活動移行実証事業と伝えられてグラウンドに連れていくけど、実際なにが目的なのか。と感じている保護者が多いと伺いました。実施する上で子ども達、保護者には実施前（年度切り替え前）には説明等必要ではないでしょうか。

2.実証内容と成果③

広報資料(R6.4月発行)

○古河市では休日(土・日・祝日)の部活動を段階的に地域スポーツクラブへ移行します。

令和6年度から「総和北中学校・三和中学校・三和北中学校・三和東中学校」のサッカー部が地域移行の取り組みを始めました。



保護者の皆様へ

部活動はどうなるの？

古河市では
平日は今までどおり学校部活動を行い
**休日(土・日・祝日)は
地域クラブ活動に移行します**

市内中学校9校の部活動が
すぐに移行するわけではありません

**古河市の実情に応じ
段階的に移行していきます**

令和6年4月

【生徒・保護者への参加啓発チラシ(表)】

出典:古河市教育委員会



**部活動の
地域移行って？**

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するものです。学校とも連携しながら多様な活動を実施します。

これまで
学校が主体となり、学校ごとに教員が顧問となり、部活動を実施してきました。

しかし、
約15年で市内中学校の生徒数は
4,268人から3,199人に減り、
部活動の種類や部員数も減っています。

同様の課題が全国にあり、国は
「部活動の地域移行」を推進しています。
「地域の子供たちは、学校を離れた地域で
育てる」という考えです。

「部活動の地域移行」により
●学校を離れた仲間との出会い
●有資格者や専門性のある指導者による指導
●多様な体験、多様な世代との交流 などが
期待されます。本市でも地域の皆様にご協力を
いただきながら、取組を進めていきます。

令和6年8月からは、実証事業として
総和北中学校、三和中学校、三和北中学校、三和東中学校
サッカー部の地域移行(地域クラブ活動)を始めます。

子どもたちの「やってみよう」を応援できるように
安心して活動できる環境を整えていきます

スポーツ庁
部活動改革ポータルサイト

古河市教育委員会 0280(22)5111
教育総務課・スポーツ課

【生徒・保護者への参加啓発チラシ(裏)】

出典:古河市教育委員会

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



▲体験会前の受付



▲体験会の道具(一部)



▲指導者の話を熱心に聞く参加者

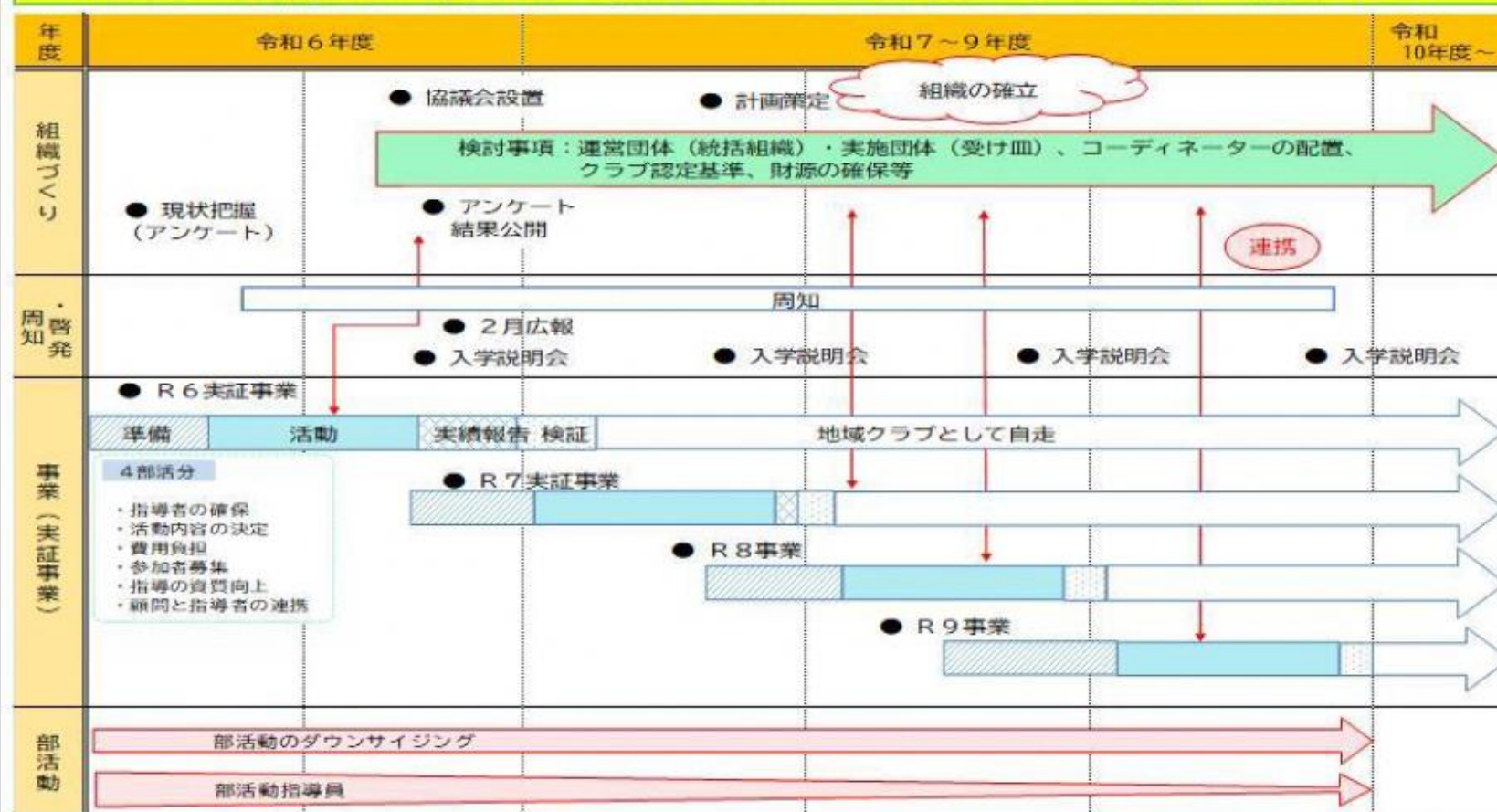


▲参加者にインタビュー

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和9年度末までに
休日に教職員が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 石岡市

自治体名：茨城県 石岡町

担当課名：教育委員会教育課

電話番号：0299-43-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積215.53 km ²
人口	70,460 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,577人
部活動数	59 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	策定済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当市では、4 種目が地域部活動として活動を行っている。少子化に伴い、従来から野球部やサッカー部では、他の中学校と合同チームによる活動を行ってきた。

本市の昨今の出生者数を見ると、児童生徒数は年々減少傾向にある。10年後には生徒数が令和 6 年度比の59%となることが推計され、団体スポーツの将来的な存続の難しさが予想される。

部活動の改革推進期間の 3 年目となり、持続可能性と多様性による生徒のための地域部活動を第一に進め、同時に教職員の働き方改革の推進を目標とし、地域移行を進めている。

また、長年にわたり、部活動は自分が選んだ種目を 3 年間継続するものという考え方が生徒、保護者、地域に根付いている。

今後、地域移行によって地域ぐるみで子供たちを心身ともに育成していくこと、子どもたちが自分で行いたい活動を自由に選べること、部活動が教育課程外のものであり教職員の働き方改革の点からもそ本事業の効果が見込まれることなどを、関係者や保護者に周知し、理解促進を図っていく。同時に地域移行の推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の発掘、確保を同時に進め、マルチスポーツの促進を図っていく。

石岡市の人口の将来推移



地域アプローチを活用した石岡市の人口減少対策より

【課題】

現在の石岡市の人口の将来推計を鑑みると、市全体の人口減少に伴い、児童生徒数も減少していくことが想定されている。

【中学生の人数（予測）】

R 6年度 1577人
R 13年度 1361人 (86%)
R 17年度 937人 (59%)
※括弧内はR 6との比較した割合

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



※保護者による協力

- ・参加費800円負担（保険料含む）
- ・会場までの送迎
- ・ICTを活用した申込み・欠席連絡・保険手続き

◎教育委員会

- ・ポスター作製、配布による生徒への周知、勧誘
- ・活動全般へのサポート（開錠・施錠、楽器の搬入搬出、楽譜の印刷配付）
- ・ICT活用による応募フォームや連絡フォーム等の作成

◎首長部局

- ・減免による施設の貸し出し（陸上競技場、体育館、球場、サッカー場）
- ・市報への情報掲載（広報いしおか、SNS（X、LINE））
- ・庁舎や公民館でのポスター掲示

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 令和6年8月 | 関係団体ヒヤリング（指導者の派遣の調整） |
| 令和6年8月 | 第2回石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会 |
| 令和6年9月 | 中体連への説明（校長会・専門委員会）
学校管理職を対象とした説明の実施
指導者、部活動顧問との話し合い |
| 令和6年12月 | 第3回石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会 |
| 令和6年12月 | 「休日のスポーツ活動」チラシ配布、募集開始
休日の地域部活動・運動部開始
（陸上競技・剣道・サッカー・野球） |
| 令和7年1月 | 中学校新入生説明会での市教委による説明
休日の地域部活動・運動部実施
（陸上競技・剣道・サッカー・野球） |
| 令和7年2月 | 休日の地域部活動・運動部実施
（陸上競技・剣道・サッカー・野球） |
| 令和7年3月 | 休日の地域部活動に参加してのアンケート実施
（生徒・保護者・指導者）
事業完了報告書・成果報告書等の作成 |
| 令和7年3月 | 中学校の教員に向けた次年度についての説明会 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	14 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4 クラブ（14部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	116 人	全体の運営スタッフ数	14 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは 末尾に（新）を 付ける	実施回数	実施時間 帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼 務）	会費	大会参加 方法
陸上競技の部	地域移行・ 団体等運 営型	陸上競技 の部	0.5回/月 （年間6回）	AM9時 ～ AM12時	2年13名 1年10名	R6・12月 ～ R7・2月	石岡、八郷 運動公園	3 人	3 人（内、兼 務3人）	年会費 800 円（スポー ツ保険など）	中体連 ：部活動
剣道の部	地域移行・ 団体等運 営型	剣道の部	0.5回/月 （年間6回）	AM9時 ～ AM12時	2年12名 1年8名	R6・12月 ～ R7・2月	石岡、八郷 運動公園	8 人	8 人（内、兼 務8人）	年会費 800 円（スポー ツ保険など）	中体連 ：部活動
軟式野球の部	地域移行・ 団体等運 営型	軟式野球 の部	0.5回/月 （年間6回）	AM9時 ～ AM12時	2年2名 1年10名	R6・12月 ～ R7・2月	府中中学 校 柏原球技 場	2 人	2 人（内、兼 務2人）	年会費 800 円（スポー ツ保険など）	中体連 ：部活動
サッカーの部	地域移行・ 団体等運 営型	サッカーの 部	0.5回/月 （年間6回）	AM9時 ～ AM12時	2年4名 1年2名	R6・12月 ～ R7・2月	染谷、柏原 野球場	1 人	1 人（内、兼 務1人）	年会費 800 円（スポー ツ保険など）	中体連 ：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 野球の部においては、最終日に市役所の野球チームとの練習試合を実施

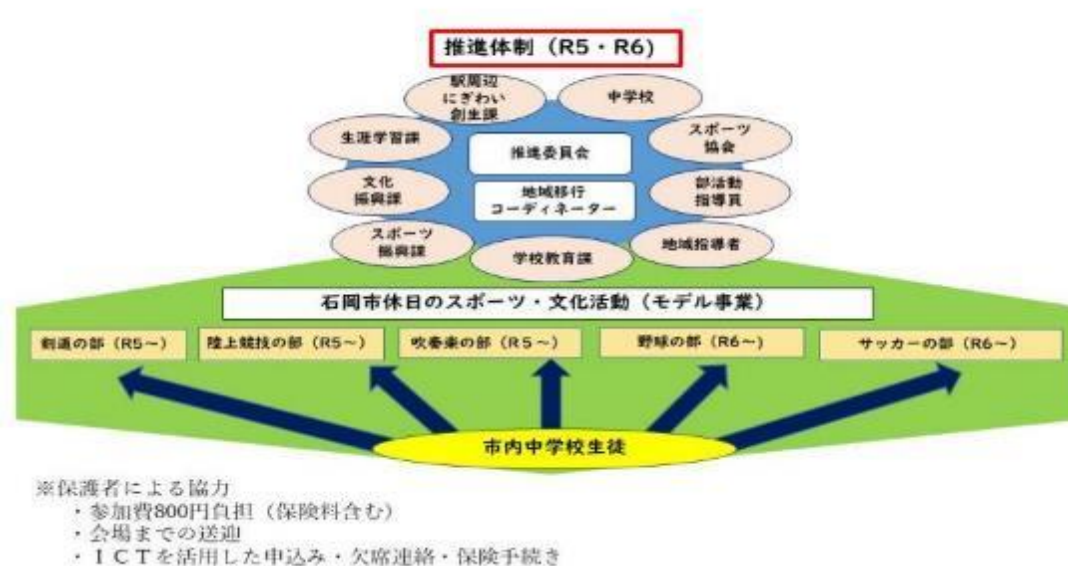
2.実証内容と成果

主な取組例

●青葉スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、剣道、軟式野球、サッカー
運営団体名	石岡市教育委員会
期間と日数	12月14日～2月24日 月2回程度
指導者の主な属性	市陸上競技連盟、市剣道連盟、 少年野球指導員、少年サッカー指導員
活動場所	石岡運動公園、八郷運動公園 府中中学校、柏原サッカー公園 染谷野球場、柏原野球場
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり ：1,850円/年（64歳以下） ：1,200円/年（65歳以上）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：各活動をまとめる管理者として、学校、保護者、指導者との連携を行う。

●主任指導者 4名

役割：各活動における主任者として、生徒への指導に関わるとともに各団体内での連絡調整を行う。

●運営補助者

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターの役割を教育委員会が担い、関係団体・指導者との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制づくりを行う。

○参加者の募集、出欠席の管理、悪天候時の態度決定など、参加者・指導者への連絡等にICTを活用し効率化を図る。

取組の成果

○統括コーディネーターとして市教育委員会が運営団体となり、一元化して進めたことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○関係団体の新規開拓を図り、本年度は昨年度実施の陸上競技、剣道に加え、軟式野球、サッカーを加えた4種目に広げて活動することができた。

○ICTを活用し、申込や保険加入に必要な個人情報の収集にあたり、入力用のフォームやQRコードを作成し、メーリングリストによる入力を取り入れた。参加希望者とのやり取りが迅速に対応でき、参加申込作成の煩雑さを、ICTを活用して軽減し、新たな会員の確保を図ることができた。

○メーリングリストを作成し、悪天候の際の態度決定の連絡や、練習の際の持参物の連絡などに活用することで、スムーズな事務連絡を行うことができた。

○学校、参加者、保護者、指導者を繋ぎ、地域部活動の趣旨や本市の方向性をととの効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行うことができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・各クラブの活動の際には教育委員会が共に参加し、活動がスムーズに進むよう補助を行ったり、開錠や施錠を行うなどのサポートを行った。
- ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- ・学校、参加者、保護者、指導者にICTを活用し、連絡調整を実施した。

今後の課題と対応方針

- 公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 市内の中学生であれば希望する生徒は誰でも参加できるよう、また、自分が中学校で所属している部活動の種目以外でも参加を認め、マルチスポーツの考え方から、複数の運動に関われるよう配慮した。
- 本市は市内が大きく二つのエリア（石岡地区・八郷地区）に分かれているため、生徒が参加しやすいよう、市の中心部の施設を活用したり、活動場所を二つのエリアで交互に実施したりした。
- 活動場所の確保については、市の施設を利用するようにすることで、施設利用料をかけずに、よりよい環境で生徒が活動できるように配慮し実施した。

各自治体の役割

- 石岡市教育委員会
 - ・地域クラブ運営、予算管理
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - ・諸謝金等の事務処理

移動手段

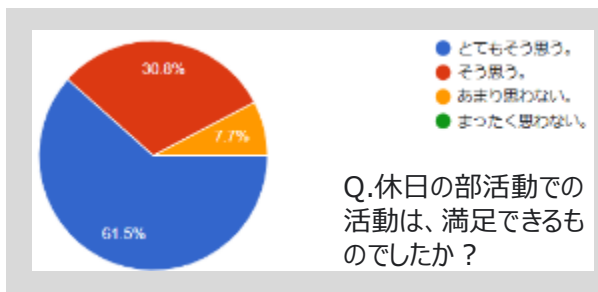
- 生徒の安全面の確保から、活動場所まで、保護者送迎を基本とした。
- 練習場所が学区内であった種目については、普段の通学同様自転車による移動を認めるなど、柔軟に対応した。

事務局運営の方法

- 石岡市教育委員会が中心となって各スポーツ団体の代表者と連絡、調整を行った。
- 総括コーディネーターが関係団体等との連絡調整を実施した。
- 受益者負担の考え方を基本として、本年度はスポーツ保険料800円（参加費）を保護者負担として徴収した。
- 各種目への生徒募集や出欠席の連絡等は、ICTを活用してQRコードやフォームからの入力で完了するようにすることで、保護者の負担軽減を図った。

取組の成果

- 活動に参加した生徒は、4種目で61名であった。募集期間も広く設け、希望する全ての生徒を柔軟に受け入れたことで、練習に参加した生徒から評判を聞いた生徒が後から加入する様子も見られた。
- 実施内容に対し、生徒アンケート結果での満足度92.3%が満足との回答を得ることができた。



出典：生徒アンケート（令和7年3月7日時点）
 「令和6年度石岡市休日の地域部活動（運動部）を体験してより」

今後の課題と対応方針

- 移行に取り組む中学校の部活数を段階的に増やし、令和13年度末までに域内の全ての運動部活動を地域クラブ活動へ移行していく。
- 平日の部活動での指導者の確保や、活動場所への交通手段等が課題である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

少子化等の現代的な課題により、部活動においてチームを結成し集団で練習に取り組む機会が少なくなりつつある中、学校の枠を超え、同じ種目で技能の向上を目指し、チームワークを構築して協働するような体験は、引き続き重要であると考えます。

そこに、各種目の専門性の高い指導者を迎え、高度な指導を生徒に提供できたことは、生徒の活動への満足感、技能面の向上、他者との協働的な学びの面などで大変効果的であった。

参加した生徒の指導者への感想のコメントの中にも「いろんな指導者の方々と稽古ができてとてもいい経験をさせていただきました。一つ一つ丁寧にアドバイスしてくださりありがとうございました。」との記載があるなど、地域で活動するメリットを感じている姿も見られた。しかし、「参加人数が少なかった」ことが残念だったとのコメントが生徒、保護者からも挙げられたのは期待の裏返しでもあると捉え、部員募集に向けて、周知を図っていきたい。

また、本活動に対する保護者の感想には、目標に向かって頑張る生徒への励ましの言葉や頑張る姿を賞賛する声が寄せられていた。保護者の理解もあり、生徒の送迎を含めた協力的な対応によってスムーズな運営をおこなうことができた。

生徒を心身ともに育成しようという地域ぐるみの取組として、本事業の部活動は生徒、保護者、指導者を機能的に繋ぎ、運営ができた。

●成果の評価

- ・他校の生徒や異年齢の集団とともに、**共通の目的に向かって協働する楽しさや喜び**を、生徒自身が感じることができた。
- ・**専門性の高い複数の指導者から質の高い指導**を受けることができ、参加した生徒が**取り組んだ種目への興味関心・技術の向上**を図ることができた。
- ・**市保有の公共運動施設を練習場所として確保できたことで、定期的に練習を行える場を確保**することができた。
- ・**練習の成果を発信する機会**として、種目によっては試合形式などを行うことで、生徒がその種目に取り組む楽しさや達成感、充足感を得ることができた。
- ・本年度の各種目の取組内容を、中学校の新入生説明会で説明したことにより、**部活動地域移行を広く周知する機会**とすることができた。

●今後に向けて

今後は、実施の種目や回数を増やすなど、生徒の豊かな体験の場を確保していきたい。その上で、マルチスポーツの考え方を生徒、保護者、指導者、学校、地域など生徒に関わる全ての人に伝え、理解を促していく。

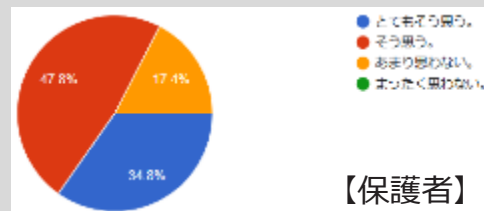
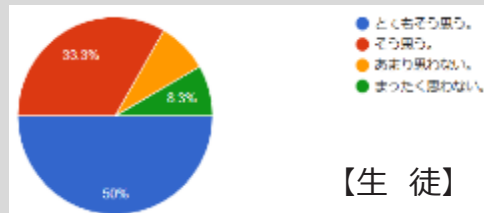
さらに、保護者の負担を軽減するという点からも、会場までの移動手段を保護者送迎限定とせず、市の他部局と連絡調整してオンデマンドタクシーや市バスの活用を検討するなど、部活動地域移行を市を挙げて推進していく必要があると考える。

2.実証内容と成果②

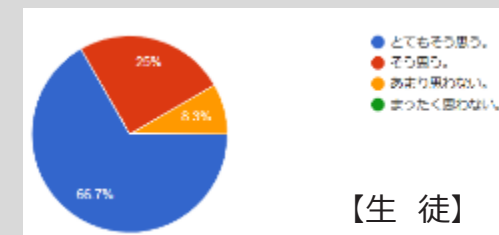
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.同じ地域で、別の学校の生徒と文化・スポーツ活動を一緒に活動したい（させたい）と思いますか？



Q.休日の部活動での活動は、満足できるものでしたか？



Q.お子様たちへのへのメッセージをお願いします。【保護者】

このような活動ができる場を大切にしたい
楽しい中学生ライフを！
経験した事を今後の活動に活かして欲しいです
先輩が後輩で学べたことを少しでも今後にいかして頑張って欲しい
目標に向かって頑張る楽しさを感じてほしい
よく頑張りました！
とりあえず、なんでもチャレンジしていい欲しい
たくさん体を動かして、元気な体づくりをしよう！
部活動を通じて様々な経験を積んでいって下さい。そして、何より楽しんで下さい。

●参加者の声

中学生の声

いろんな指導者の方々と稽古ができてとてもいい経験をさせていただきました。一つ一つ丁寧にアドバイスしてくださりありがとうございました。

中学生の声

いろいろな学校の友達と切磋琢磨することができた。

指導者の声

同じスポーツに取り組む生徒のみなさんに、「石岡市のみんなでうまくなろう」と声をかけさせていただきました。また、人と人が関わるうえで思いやりや礼儀の大切さも伝えさせていただきました。みなさん、違う学校に通っているとは思えないほど、とてもよい雰囲気でも活動していました。

保護者の声

帰ってくると、今日は何やったんだよ！楽しかったー！と報告してくれて、参加させて良かったなと思いました。普段とは違う練習、環境、メンバーで楽しく練習できたのは、とてもいい経験だと思います。

保護者の声

本人は学校とは違う場所、違うコーチでのサッカーとても楽しかったようです。充実した時間が過ごせたと思います。

石岡市生徒・保護者アンケート（活動期間：令和6年12月～2月）の結果抜粋

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

活動に参加していただいた生徒、保護者、指導者にアンケートを行った。生徒、保護者からは肯定的な回答が多く見られ、「休日の部活動での活動は、満足できるものでしたか？」の問いには生徒83.4%、保護者100%が肯定的に回答していた。また、「同じ地域で、別の学校の生徒と文化・スポーツ活動と一緒に活動させたいと思いますか？」の問いには、生徒100%、保護者82.3%が肯定的回答をしていた。他者と関わりながら、楽しく活動できていた様子がアンケート結果からうかがえる。意欲的に取り組む生徒たちに対し、保護者からの温かなメッセージも寄せられていた。

広報活動としては、作成しチラシを市役所庁舎内や中央公民館に掲示を依頼したり、希望者が自由に手に取れるよう設置、配付したりした。また、各学校で生徒に周知する際には、一人一台端末にチラシをデータで配付するなど、学校の校務DXも図りながら周知を図った。

競技によっては「参加者が少なかったことが残念」「部活の大会の日と重なったため参加できなかった」という声も寄せられたことから、より一層の周知と学校の部活動との調整等が必要であると考えられる。

石岡市中学生休日のスポーツ活動

陸上競技の部

参加者大募集!

陸上競技を専門にやらない人にも、「楽しみたいから体力を向上させたい!」「汗を流すのが好き!」などいろいろな思いを持った人にも参加できます。

参加費 ¥800 (スポーツウェア代別)

練習時間 9:00~12:00

練習日 2024/12/14(土) 2025/2/8(土)・24(日)

練習場所 石岡運動公園

参加対象者 石岡市立中学校1,2年生

集合・解散 現地集合・現地解散

指導者 石岡市陸上競技連盟

石岡市中学生休日のスポーツ活動

剣道の部

参加者大募集!

剣道は剣道生だけでなく、習い始めてからでも楽しめます。

参加費 ¥800 (スポーツウェア代別)

練習時間 9:00~12:00

練習日 2024/12/14(土) 2025/1/18(土)・25(日) 2025/2/1(土)・11(日)・22(日)

練習場所 八郷運動公園体育館武道場 石岡市運動公園体育館サブアリーナ

参加対象者 石岡市立中学校1,2年生

集合・解散 現地集合・現地解散

指導者 石岡市剣道連盟

石岡市中学生休日のスポーツ活動

野球の部

参加者大募集!

未経験でもOK! 楽しく学ぼう!!

参加費 ¥800 (スポーツウェア代別)

練習時間 9:00~12:00

練習日 2024/12/15(日) 2025/1/19(土)・26(日) 2025/2/9(土)・23(日)

練習場所 染谷野球場 柏原野球場

参加対象者 石岡市立中学校1,2年生

集合・解散 現地集合・現地解散

指導者 少年野球指導員

石岡市中学生休日のスポーツ活動

サッカーの部

参加者大募集!

サッカーを専門にやらない人にも、「楽しみたいから体力を向上させたい!」「汗を流すのが好き!」などいろいろな思いを持った人にも参加できます。

参加費 ¥800 (スポーツウェア代別)

練習時間 9:00~12:00

練習日 2024/12/15(日) 2025/1/22(土) 2025/2/11(土)・20(日)・23(日)

練習場所 府中中学校グラウンド 柏原球技場 柏原球技場

参加対象者 石岡市立中学校1,2年生

集合・解散 現地集合・現地解散

指導者 少年サッカー指導員

【生徒への参加啓発チラシを市役所庁舎や市中央公民館でも掲示、配付】

出典:石岡市教育委員会学校教育課作成チラシ

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【陸上競技の部】総合運動公園でのトレーニング



【剣道の部】昇段審査前の指導に聞き入る生徒たち



【軟式野球の部】少年野球のコーチを指導者に迎えて



【サッカーの部】パスからのシュート練習

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、市のスポーツ連盟、各競技団体

市長部局、市教委（総括コーディネーター）、各種目担当責任者

経過

令和5年度から、市教育委員会が運営団体の中心となり、検討委員会を設置した。令和6年度は、運営団体と指導者、行政等で組織する連絡協議会を設置し、各種目の活動にあたっての運営マニュアルや指導の方針を検討した。令和8年までに新たな地域クラブ体制を構築する推進計を策定している。

実施内容

12月からは市内5中学校の14部活動において、地域クラブ活動へ参加する取組を開始し、部活動地いい展開として4種目が実施された。この内、1つのクラブは1つの中学校の生徒が参加する形態となっているが、生徒が希望すれば学校の部活動に所属していない活動であっても、市内全域から参加可能とした。

実施にあたって生じた課題

休日の地域部活動を終え、生徒と保護者のアンケート結果で指摘された共通の主な課題として、「参加人数が少ない、女子が少ない」等の意見が寄せられた。また、一人の保護者からは「場所が遠く送迎が負担」との回答もあった。想定より少なかったが市としての対応が求められている。

運営面では、種目によっては生じる指導者不足が課題であり、持続可能で多様性のある地域部活動実現のためには改善が必要であると捉えている。スポーツ少年団や地域の企業等へ指導者募集の案内を出すなど、関係者への積極的な働きかけを検討している。

今後の展開

令和8年から13年にかけて、市内すべての中学校において、休日の地域部活動を毎週実施できるよう拡大していく。また、持続可能な運営のため、受益者負担の点からも、適切な会費負担を検討していく。

本年度、新1年生とその保護者の理解を得るため、中学校の新入生説明会の際には、市教育委員会担当者が地域部活動の説明を行った。今後、パンフレットや説明動画等を作成し、本事業への理解を促していく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた見通し

石岡市の部活動地域展開イメージ図

【石岡市部活動地域展開でめざす姿】

生涯にわたってスポーツ・文化活動を豊かに楽しむ基礎づくり

ニーズに応じながら多様なスポーツに親しむ環境の提供
【マルチスポーツの考え方】

持続可能で多様なスポーツ・文化活動環境の確保

多様な他者との
連携

中学校の生徒

地域の指導者

小・高校との
連携も視野に

【持続可能】
既存のノウハウ・環境活用

【多様性】
多様な活動機
会の保障と自
己選択

【マルチスポーツ】
他競技を経験することは
身体機能の向上やケガの
防止だけでなく、複数の
コミュニティへ所属を通
じて、子供たち自身の社
会性や協調性等を育む機
会の増加にもつながるな
ど教育的意義も大きい。
【スポーツ庁HPより】

持続可能・多様性を保障する部活動地域展開 実現のために（4つの施策）

活動の担い手・支え手の確保

- ・豊かな専門性
- ・地域や教員含めた様々な世代

活動の場の確保

- ・学校や市の施設など
環境の整った場の活用

地域循環型へ

- ・地域振興も視野に
- ・参加者から指導者へ

推進母体の確立

- ・持続可能な活動の推進
- ・運営方法、運営団体の整備

地域展開完全実施までのスケジュール（目標）

R5～

- ・実証事業（3団体）
- ・アンケートの実施

- ・陸上競技、剣道、吹奏楽
- ・児童生徒、保護者、教員
の意識や実態把握

R6～

- ・休日地域部活動
実証事業（5団体）
- ・中体連への説明

- ・3団体＋野球、サッカー
- ・オブザーバー招聘
- ・中体連でのプレゼン

R7～

- ・実証事業（7団体）
- ・種目の調査・整理
- ・活動場の調査・整理
- ・指導者の確保・整理

- ・5団体＋卓球、テニス
- ・総体までは月1日、新チームから月2日

R8～13

- ・実証事業の継続
- ・実施団体の拡充
- ・推進体制の整備

- ・休日の部活動完全移行
（団体数・活動日数）

・スポーツ
文化活動
地域展開
の開始

- ・平日含む地域展開完全移行
- ・広域連携の可能性の検討

出典：石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進教委議会で示す資料（案）

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 龍ヶ崎市

自治体名：茨城県龍ヶ崎市

担当課名：教育委員会文化・生涯学習課

電話番号：0297-64-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	78.59km ²
人口	75,635 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,733 人
部活動数	52 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

スポーツ・文化芸術等の部活動を学校から地域クラブ活動へと移行することを目指し、令和5年度から令和7年度までの3年間を「改革推進期間」として、「地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」などの方針が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」で示された。龍ケ崎市でも、5月に「龍ケ崎市地域クラブ活動ガイドライン」を策定し、7月には「龍ケ崎市地域クラブ活動移行推進協議会」を設置し、年3回開催した。庁内でも検討会を6回開催し、部活動地域展開に向けて計画を進めてきた。

現在、龍ケ崎市の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、バスケットボール部（男女）、バレーボール部（男女）、ソフトテニス部（男女）、卓球部（男女）、柔道部、剣道部、弓道部、陸上部があり、全部で52運動部活動ある。

少子化に伴い、数年前から野球部とサッカー部は合同チームによる部活動を行い、昨年度から東（2校）と西（3校）の2チームによる活動となった。

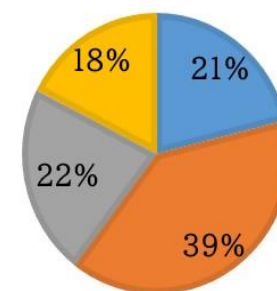
生徒数も年々減っており、団体スポーツの将来的な継続は難しいものとする。

令和6年度は、部活動地域移行の実証事業として、野球部とサッカー部の休日の練習を地域移行した。顧問と地域指導者で連携を取りながら、8月より活動を開始した。

課題としては、練習会場までの移動や参加生徒が少ない等いくつか挙げられるが、その都度関係者間で連携を図りながら進めてきた。

休日の部活動が顧問ではなく、地域クラブの指導者となった場合、参加したいと思いますか。（932人回答）

■①参加したい ■②まあ参加したい ■③あまり参加したくない ■④参加しない

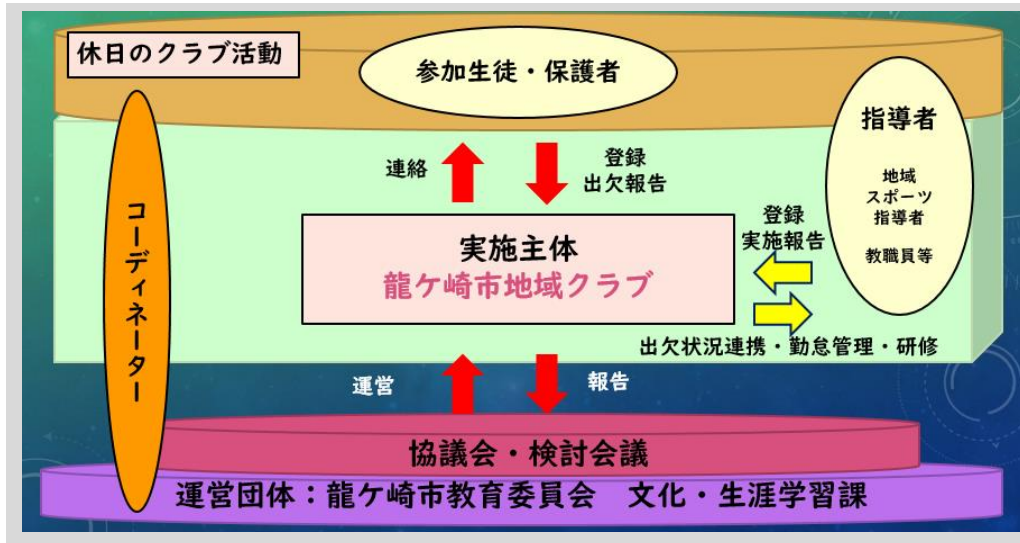


部活動地域移行アンケート
令和6年7月
市内中学1・2年生（932人）実施

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・文化・生涯学習課…部活動改革の主管、学校との連絡・調整、推進計画策定 など
- ・教育総務課…学校施設管理・学校施設利用時の制度整備
- ・指導課…部活動指導員の配置

◎首長部局

- ・スポーツ推進課…地域スポーツの環境整備、施設の管理、スポーツ指導員の配置
- ・財政課…予算措置、使用料・手数料検討委員会
- ・人事行政課…部活動コーディネーター公募

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回部活動地域移行検討会開催
令和6年6月	第2回部活動地域移行検討会開催
令和6年7月	第1回龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会開催
令和6年7月	第3回部活動地域移行検討会開催
令和6年7月	野球部・サッカー部保護者説明会
令和6年8月	野球・サッカー地域クラブ体験会
令和6年8月	市教研にて全教職員説明
令和6年9月	第4回部活動地域移行検討会開催
令和6年10月	第5回部活動地域移行検討会開催
令和6年11月	第2回龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会開催
令和7年1月	第6回部活動地域移行検討会開催
令和7年2月	第3回龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会開催
令和7年2月	全教職員説明（オンライン）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A : 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（8 部活）
	B : 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	8 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
RYUGASAKI BASEBALL CLUB	総合型地域 スポーツクラブ 「クラブ・ドラゴンズ」	軟式野球(新)	週 1 回	9 時～ 12 時	中 1 : 5 人 中 2 : 7 人	令和 6 年 8 月～ 令和 7 年 2 月	たつのこ スタジアム 龍ヶ崎中	4 人	4 人（内、兼務 1 人）	なし	中体連：部活動 JWC：顧問対応
FC RYUGASAKI	総合型地域 スポーツクラブ 「クラブ・ドラゴンズ」	サッカー（新）	週 1 回	17 時～ 19 時	中 1 : 16 人 中 2 : 15 人	令和 6 年 8 月～ 令和 7 年 2 月	たつのこ フィールド	4 人	4 人（内、兼務 1 人）	なし	中体連：部活動 IFA：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 7 月 20 日（土） 野球部保護者説明会
- 7 月 26 日（金） サッカー部保護者オンライン説明会
- 8 月 4 日（日） RYUGASAKI BASEBALL CLUB 体験会（たつのこスタジアム）
- 8 月 4 日（日） FC RYUGASAKI 体験会（たつのこフィールド）
- 9 月 8 日（日） イースタンリーグ（日本ハム V S 巨人）観戦
- 9 月 21 日（土） 地域指導者による県南新人戦出場校でのポジション練習
- 9 月 28 日（土） 地域指導者による県南新人戦出場校でのポジション練習
- 10 月 19 日（土） Jリーグ試合観戦（鹿島アントラーズ V S アビスパ福岡）試合観戦
- 2 月 8 日（土） 小学生体験会実施（サッカー）



【野球部・サッカー部保護者説明会の様子】

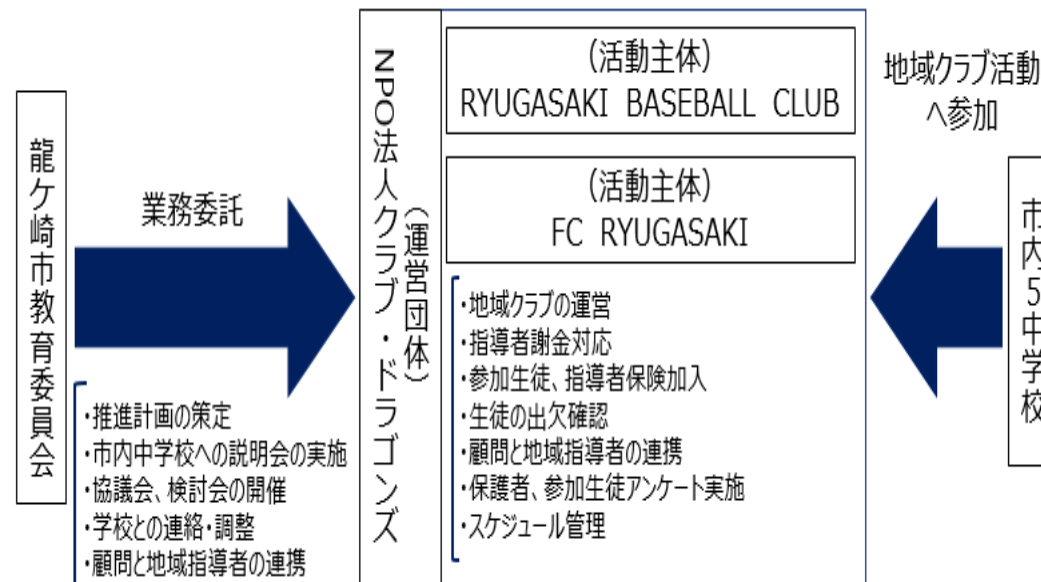
2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ・ドラゴンズ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー
運営団体名	総合型地域スポーツクラブ「クラブ・ドラゴンズ」
期間と日数	野球：8月4日～3月30日 週1回程度 サッカー：8月4日～3月29日 週1回程度
指導者の主な属性	兼職兼業・市スポーツ指導員 クラブ・ドラゴンズスタッフ
活動場所	たつのこスタジアム・たつのこフィールド 市内中学校
主な移動手段	自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	野球：0円 サッカー：0円
1人あたりの保険料	スponsル補償 生徒1人あたり：150円/月 指導者1人あたり：200円/月

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●事務総括

役割：活動における管理者として、事務全般を行う

●マネージャー

役割：活動における主任者として、生徒への指導や学校への説明を行う

●指導者 8人

役割：運営団体マネージャーの指示に従って、活動を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○関係団体代表者からなる「龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会」を発足し、年3回情報交換を行った。庁内でも関係各課長からなる検討会を年6回実施した。

○8月の実証事業開始に向け、野球部保護者とサッカー部保護者に向けて、地域移行について説明会を行った。

○運営団体マネージャーと持続可能な運営ができる組織体制の整備を行った。体験会や休日の地域クラブ活動の様子を視察し、定期的に地域指導者や生徒と意見を交換した。

取組の成果

○市のスポーツ協会やスポーツ少年団、スポーツ推進委員、大学教授、市校長会、PTA連絡協議会、中体連理事長など10名から組織される協議会を発足し、年3回情報交換を行った。関係団体の代表者それぞれの立場から意見をいただいた。県教育庁学校教育部保健体育課の部活動地域移行担当指導主事にもオブザーバーとして参加してもらい、意見をいただいた。

○業務委託先である総合型地域スポーツクラブ「クラブ・ドラゴンズ」のマネージャーと8月からの実証事業に向け、組織体制の整備を行った。事前に市内5中学校を部活動地域移行担当者と一緒に訪問し、各校長や顧問へ事業説明を行い、理解を深めてもらった。すでに陸上部で中体連登録をしている団体であるので、学校側も安心して生徒を任せることができた。

龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会委員

- ・市スポーツ協会（代表者：）
- ・市スポーツ少年団（代表者：）
- ・市スポーツ推進委員（代表者：）
- ・流通経済大学（代表者：）
- ・市小中学校体育連盟会長 小学校：校長
中学校：校長
- ・龍ヶ崎市校長会長（校長：）
- ・PTA連絡協議会（市P連会長：）
- ・中学校体育連盟（理事長：）
- ・中学校文化部顧問（顧問：）



担当者の具体的な動きの実績（学校対応）

- 校長会中学校部会参加（4月・5月・6月・12月）
- 校長会定例会参加（12月・1月）
- 教頭会参加（4月・2月）
- 市教研にて市内全教職員へ説明（8月・2月）
- 野球・サッカー全顧問ヒアリング（5月・8月・12月）

今後の課題と対応方針

- 協議会委員の中に、来年度休日地域クラブ指導者の候補者が数名いたことで、具体的な内容まで検討することができた。委員の役職によっては、協議会に参加しているだけになってしまっている委員もいたので、来年度は委員の選考も再度検討していく必要がある。
- 学校側への説明が1回では十分に伝わらないことがあったので、繰り返し説明し、合意形成を図っていく必要あると感じた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

○野球の指導者は、クラブ・ドラゴンズマネージャーと委託先の団体が確保していた指導者3人（市外小学校教諭の兼職兼業・野球経験者など）で指導に当たった。

○サッカーの指導者は、クラブ・ドラゴンズトレーナーと市役所サッカー部（2人、市スポーツ指導者1人）で指導に当たった。量の確保についても、どちらの地域クラブも4人指導者がいることで、部活動よりも手厚い指導ができた。

登録者属性

龍ケ崎市では、スポーツ推進課で部活動支援をしている「市スポーツ指導者」制度がある。実際に市内部活動指導のサポートとして、卓球・陸上・テニスで活躍されている。サッカーの指導者は、市スポーツ指導者である。

資格有無

地域クラブ体験会までに、地域指導者全員が講習プログラムを受講し、テストを受けてから指導へ臨んだ。どちらのクラブにも、以前小・中学生を指導した経験がある指導者がいることで、質も保証されている。

取組の成果

①指導者講習プログラムとして、業務委託先が作成した6つの動画を視聴し、内容についてテストを行った。（右Q-Rコードから視聴）

・スポーツ振興 ・グッドコーチ ・安全管理 ・栄養 ・応急処置 ・スポーツとジェンダー
テスト結果については、事務局で把握し、必要に応じ個別に対応をしている。

②休日に地方大会や練習試合があるときは、顧問が部活動を行ったので、地域クラブ活動は時間や日程を変更して行った。顧問と地域指導者の連携を図るため、県南新人戦前にはサッカーの地域クラブ指導者が部活動に参加し、ポジション別の練習を行った（右写真）。野球は、部活動の練習試合時に地域指導者が審判として参加し、教員の働き方改革につなげた。

今後の課題

地域移行を進めて行く上で、顧問と地域指導者との連携は必須である。部活動地域移行担当者がコーディネーターとなり、クラブ・ドラゴンズマネージャーと市内全中学校を訪れ管理職や顧問とヒアリングを行ったり、顧問のニーズを地域指導者へ伝えたり、地域指導者と新人戦の視察を行ったりと工夫してきたが、種目数が増えていくと今年度と同じように進めていくには人的にも時間的にも課題がある。

龍ケ崎市 運動部活動地域移行 指導者研修プログラム



【G K ポジション練習の様子】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○市内には、昨年度立ち上げた中学生の軟式野球チームがある。代表者とヒアリングをする中で、部活動の指導方針にある活動時間を守ることが難しいとのことで、中体連登録は考えていないが、市内の中学生が数名在籍し休日練習している。

○市内の野球・サッカー少年団に在籍している6年生の児童数と入部希望先を把握するため、スポーツ少年団の指導者にヒアリングを行った。

○来年度、クラブ・ドラゴンズが継続して平日も練習できる環境を整えることができたため、野球・サッカーで中体連登録に向け細則を確認した。野球の団体登録に必要な審判ライセンスを地域指導者が取得するため、野球連盟龍ヶ崎支部の代表者と相談し、講習会を設定した。

取組の成果

○地域クラブ活動を行っている活動場所（たつのこスタジアム）が本市の東側にあるので、西側の学校の生徒は移動が課題となり、参加できない生徒が多かった。そこで、既存の軟式野球チームの休日練習場所を西側の中学校のグラウンドを使用することで、西側の学校の生徒も野球練習ができる環境を整えた。

（市内野球部員30名、クラブ・ドラゴンズ会員14名、軟式野球チーム6名）
休日に中学校のグラウンドを既存のクラブチームへ開放する前例がなかったが、検討会で施設利用規約等について確認し、当該校長とクラブ代表者、担当で話し合いをもち、施設開放が始まった。左下図（当該校HPより）のように、学校側もメリットがあり、良いモデルとなっている。

●クラブ野球チームが校庭防護ネット修理をしてくれました。

現在、部活動（野球）の休日地域移行により、空いた野球場を地域の野球チーム「JHBC」にお貸ししております。

去る11月3日（日曜日）、劣化や除草の際に破れた防護ネットの補強をしていただきました。とても丁寧に作業をしていただき感謝しております。



ネット修理-1



ネット修理-2

今後の課題と対応方針

○休日、野球ができる環境が2チームあることで、生徒も選びやすかった反面、どちらも人数が少ないという課題があった。また、1つは休日の地域移行クラブ（3時間のみの活動）1つは休日のみの活動（土・日）ということで、生徒や保護者が疑問を抱き、質問を受けることもあった。HPやチラシで周知はしているが、直接説明する機会を設けていく必要性を感じた。

○地域クラブが中体連登録をするには、種目ごとに細則が決まっており、野球は指導者資格や審判資格が必要であった。市の野球連盟龍ヶ崎支部に協力してもらい講習会を実施したが、今後中体連登録を考えているクラブには、事前に登録資格を確認しておく必要があると感じた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

○学校への周知

- ・業務委託先マネージャーと事務局担当で市内校長へ概要説明（訪問）
- ・校長役員会、学校長会等で説明
- ・ホームページへ関連資料掲載
- ・市教育研究会全体会にて市内全教職員へ周知
- ・野球・サッカー顧問へヒアリング（学校訪問 5 校× 3 回）
- ・野球・サッカー保護者会開催
- ・新入生中学校訪問時、説明会実施
- ・市論文発表会（オンライン）時に説明動画視聴（全教職員へ）

取組成果

市内 5 中学校長や野球・サッカー部顧問とヒアリングをするため定期的に学校を訪問することで、市の推進計画やロードマップについて共通理解を図ることができた。市内の全教職員に対しても、夏の市教研の研修会全体会（右図）で担当から説明することで、現状について共有することができた。また、年度末の市論文発表会（オンライン）時に、令和 7 年度の地域移行の推進計画について、説明動画を活用して周知することができた。



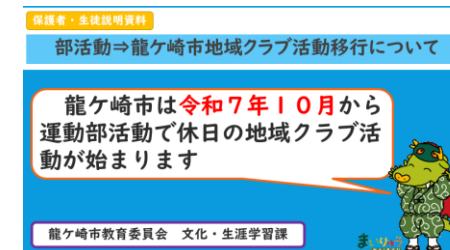
特に工夫した事項

5 月、サッカー部顧問とヒアリングをした際に、保護者や生徒から部活動地域移行について質問があり、返答に困っているとのことだったので、定期的に学校長や顧問と連携を図り、情報提供をしてきた。

部活動地域移行担当が学校や保護者、生徒へ直接説明をすることで、伝えたい事項を選んで効果的に伝えることができた。また、説明会に参加できなかった保護者には、説明動画（右図YouTube）やチラシを活用して周知した。

今後の課題と対応策

地域移行担当が学校・保護者・児童・生徒への説明を直接行い、同時に他種目の関係団体（スポーツ少年団・スポーツ協会・大学関係者等）とヒアリングをしてきたので、連絡・調整には時間がかかった。来年度はコーディネーター配属を予定しているが、複数人で対応していく体制を整えることも急務である。また、国が求める専属部署の設立も必要になってくると考える。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 令和6年度は実証事業のため、受益者負担なし
- 保険料は、クラブ・ドラゴンズが使用しているスポスルアプリの保険適用
- 令和7年度の受益者負担金を決めるために使用料・手数料検討委員会に参加
- 庁議で受益者負担額についても報告



持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- 来年度の受益者負担金を検討するため、庁内の使用料・手数料検討委員会にて、人件費・物件費・原価償却費等を基にして、体育館・弓道場を使用している休日3時間の部活動年間使用料から原価計算を行った。体育館・弓道場を休日3時間使用する場合、受益者負担は1,000円とした。
- 参加生徒数や活動回数によって受益者負担額の妥当性が変わってくる。来年度の状況をみて、再来年度以降の受益者負担額について検討していきたい。
- スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの月会費と大きな乖離がないよう、調整していく必要がある。

令和7年度 地域クラブ（野球・サッカー）に係る経費

イニシャルコストの分析

- クラブ・ドラゴンズが令和7年度から平日の練習（3日）も開始し、中体連登録を考えていることから、共にイニシャルコストを試算した。
- ユニフォーム代、連盟・協会団体登録料、中体連生徒登録料、大会参加費、遠征費 など

■ランニングコストの分析

- 経費
- ・施設使用料・消耗費・人件費
- ・交通費・指導者謝金・保険料
- ・交通費 など月会費 5,650円（平日3日・休日1日）
- ※練習時間は部活動指導方針の記載通り

令和7年度 休日地域クラブ（10月以降）に係る経費

- 本市では令和7年10月からすべての運動部を休日部活動地域展開をする予定である。スポーツ少年団やスポーツ協会など、地域に移行先団体がある種目は「既存団体運営型」として、現在行っている休日の活動に中学生が参加する形をとる。休日の移行先がない種目については、地域クラブ指導者を派遣し、「直営型」で地域展開をしていく予定である。
- ・直営型（バスケ・バレー・弓道）・・・1,000円
- ・既存団体運営型（卓球・テニス・剣道・柔道）・・・団体の月会費（1,000円～2,000円）
- ※陸上部に関しては、既に中体連登録をしているクラブ・ドラゴンズで。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

活動場所は野球はたつのこスタジアム、サッカーはたつのこフィールドを基本とした。夏場の暑い時期は、夕方から練習会を設定することで、日中暑い中の活動は避けられたが、照明代の使用料がかかった。秋以降、施設が使えないときは、市内中学校のグラウンドを使用した。

野球の活動場所は、市内中央にある中学校で行った。サッカーは、フィールドの使用ができない時のみ中学校にて数回活動を行った。顧問の意向を聞きながら、活動中学校を時期によって変更し、生徒が参加しやすいよう工夫した。

取組の成果

○市でも環境面が最も優れている施設を使用することで、参加生徒が徐々に増えていき、参加生徒や保護者からも非常に好評であった。

○中学校施設を使用する時は、移動手段がなく参加できない生徒も、近隣の中学校なので自転車でいけるようになり、参加できるようになった。

○5中学校のどのグラウンドを使用するか、地域指導者の意向を聞きながら調整をしたが、外トイレがある学校が5校中2校のみであったので、施設の鍵を使わなくてもグラウンドが使える中学校を優先的に使用した。

○各学校の部活動計画をホームページを事前に見て、地域クラブが活動時間や活動場所を調整したが、予定が変更になり、活動場所が変わったが連絡がなく、急遽活動が無しになるケースもあったので、右図のようなスプレッドシートを関係者で共有した。

月	日	チェック	可能時間(複数)	備考	決定
9月	22	✓	8:00~16:00	新人戦予備日	8:00-10:30
	29	✓	8:00~16:00		8:00-10:30
10月	6	✓	8:00~16:00	英検会場(1次試験)グラウンドを使用できるかわかりません。	x
	13	✓	8:00~16:00	午前中練習試合	8:30-11:00
	20	✓	8:00~16:00	午前中練習試合	8:30-11:00
	27	✓	8:00~16:00		8:00-10:30
11月	3	✓	8:00~16:00		9:00-11:30
	10	✓	8:00~16:00		9:00-11:30
	17	✓	8:00~16:00	16日の大会が勝ち進めば2日目にあたります。	x
	23	✓	8:00~16:00		x
	30	✓	8:00~16:00	17日の大会を勝ち進めば3日目にあたります。	x

今後の課題と対応方針

ホームページの情報や電話で活動場所や時間を調整していたが、9月以降は地域クラブのスケジュールと部活動の月予定のスプレッドシートを事務局で共有し、顧問や地域指導者が調整できるように工夫したことで、その

都度連絡を取り合わなくてもよくなった。

体育館を使用する種目の場合、学校から鍵を借りて地域クラブへ貸し出す必要になることから、スペアキーを作成する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組（1月実施 まちづくりミーティング）

取組事項

まちづくりミーティングで本市の部活動地域展開について講演してほしいとの要請があり、地域移行担当者が大学生・中学生保護者・スポーツ指導者市民の前で説明することができた。本市の現状と今後の方向性を説明した後、ワークショップとしてそれぞれの立場からさまざまな意見をいただいた。休日に行われた研修会であったが、30人以上参加があり、情報共有できたと共に、参加者が不安に感じる部分を理解することができた。

取組の成果

○部活動地域移行担当から龍ヶ崎市の部活動地域展開について説明し、参加者に理解してもらった。これまでホームページやチラシ、動画で発信をしてきたが、情報を届けたい対象者へ届いていない現状を目の当たりにした。

○他市の取り組みについて紹介する参加者もあり、他自治体と本市を比較し、話題にするグループもあった。

○市内の大学生が各グループで参加しており、自分の中学校時代と比較をしながら、今度の部活動の在り方について熱心に議論をしていた。

○参加保護者には、教職員の働き方の現状について理解してもらった。それを踏まえ、どのような環境を整えれば子どもたちが満足いか、さまざまな視点で意見が出てきた。

○スポーツ指導者や市民からも中学生の新たなスポーツ環境をどう構築するか、建設的な意見が出ていた。

ミーティングの様子



今後の課題と対応方針

○保護者・生徒への周知の方法を紙媒体にしたり、回数を増やしたりとさらに充実させる必要がある。

○文化部に在籍する保護者が多数おり、今後の地域展開について質問があった。文化部の地域展開についても早めに推進計画を示したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組（2月実施 小学生体験会）

取組事項

市内の小学5・6年生へ地域クラブ活動のチラシを配布したところ、体験会への参加を希望する児童が数名いた。よりたくさんの小学生に参加をしてもらうため、スポーツ少年団本部に協力を仰ぎ、市内にある4つのサッカー

少年団代表へ体験会を周知した。6年生のスポーツ少年団に在籍する児童6名と小学校中・高学年の児童15名程度が参加し、中学生と一緒に活動する機会を設けた。

取組の成果

○部活動は中学入学後に仮入部をし、本格的な活動をするのは5月以降、または総体後であるが、地域クラブのメリットとしては、スポーツ少年団を卒団した6年生を始め、幅広い世代がすぐに参加できることにある。スポーツ少年団指導者からも、小学生が早めに地域クラブで活動を始められることで、メリットを感じていた。

○小学生の保護者がたくさん参観をしていたことで、担当者からと地域クラブ指導者から直接保護者へ部活動地域展開や地域クラブ活動について説明をすることができた。体験会后、数名の児童は会員登録をして、毎週末の活動に参加をしている。

○地域クラブの指導者が小学生向けの練習メニューを考えることで、スキルアップにつながった。また、スポーツ少年団の指導者もサッカー指導と一緒に加わり、普段よりも活気のある活動が展開できた。

体験会の様子



今後の課題と対応方針

○中学生年代だけでなく、小学生のスポーツ少年団や高校生・大学生といった幅広い世代と交流できることも地域クラブのメリットであると感じた。今後はそのような機会を関係団体に協力してもらいながら場の提供をしていきたい。

○指導の対象が複数人となることで、本来関わるべき中学生への指導者からの声かけの回数が少なくなっていた。小学生の活動時間を短くするなど改善の余地はある。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

【成果】

○体験会では、参加生徒が少なかったが、活動を進めるにあたり徐々に会員が増え、サッカークラブでは、部活動の部員だけでなく、近隣のクラブチームに所属している市内中学生も参加し、毎回質の高い練習ができた。

○業務委託先のクラブ・ドラゴンズが顧問や生徒のニーズに合わせ、活動場所を変更したり、練習試合で審判の手伝いをしたりと、地域クラブと部活動、指導者と顧問の連携を図ることができた。

○来年度に向け、平日の部活動も地域クラブへ移行できる体制が整い、学校も新入生募集を停止することができ、野球とサッカーは地域展開できるロードマップをひくことができた。

【課題】

○実証事業開始時、周知が徹底できずに顧問や保護者から説明を求められることがあった。今後は、HPや説明動画、チラシなど生徒や保護者へきちんと情報が伝わるようにしていきたい。

○令和6年度は会費が無料であり休日のみの活動であったが、令和7年度は会費がかかり、平日3日、休日1日の週4日となることで、参加生徒が減ることが予想される。会場までの移動手段も課題となっている。

●成果の評価

○本市としては、初めての实証事業であったが、業務委託先のクラブ・ドラゴンズが課題が出てくるたびに相談を重ね、柔軟に対応してくれたこともあり、参加保護者や生徒からは満足感を得られる結果となった。野球とサッカーの実証事業を通して、部活動を地域クラブ化するまでの流れを構築することができたが、この2種目は少子化の影響で、既に合同チームとして活動していた種目である。他の運動種目はまた違う現状であり、移行先となる運営団体や活動主体もさまざまな状況であることを考えると地域展開を進めていくには乗り越える課題がたくさんあることが推察される。今後も関係者や関係団体をうまくコーディネートしながら地域展開を推進していきたい。

○2種目、休日のみの業務委託であったが、国費の補助は300万を超えている。他の種目や平日までの移行を考えると業務委託を続けることは、莫大な予算がかかっていくことが想定されることから、来年度は業務委託でなく、市が運営団体となり、その可能性を探っていく。

●今後に向けて

○野球とサッカーについては、市で1つの地域クラブを立ち上げ、平日まで地域展開できる状況になったが、すべての運動部の移行先団体を1つに絞る必要はない。1つの団体となると生徒は集まりやすいが、移動が課題になってくる。市の5中学校の生徒数をみても、4校は250人以下の規模であるが、1校は400人近い生徒数である。地域展開のみではなく、地域連携も視野にいれながら、生徒にとってベストの地域展開は何か、関係者と意見交換をしながら、新たなスポーツ環境を整えていきたい。

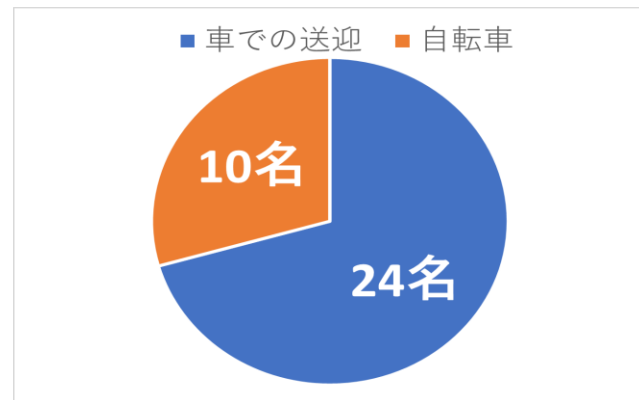
○人、モノ、金をどう確保していくか、検討を続けていく必要がある。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・関係者の声

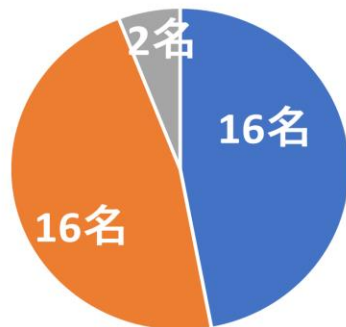
●アンケート結果（野球・サッカー地域クラブ会員 34名回答）

Q.練習会場までの移動手段は何ですか？



Q.地域クラブに求めるものは何ですか？

■ より質の高い指導 ■ 楽しく運動ができる環境 ■ その他



●関係者の声

中学生

- ・学校の部活動より専門的に教えてもらってうれしい。
- ・市内の同じ中学生で活動できて楽しい
- ・会場までの移動は大変だが、環境がよくて練習しやすいです。
- ・このチームで戦ったら強いと思う。
- ・平日も移動となると参加できない。
- ・顧問の先生と地域の指導者がいうことが違うことがある。

参加保護者

- ・地域指導者が複数で工夫して練習してくださってありがたいです。
- ・中学生が人工芝で練習できる環境を整備してくださり、本人もよろこんでおります。
- ・専門的な技術指導を受けられるようで、向上心が強くなりました。
- ・平日までとなると、送迎が難しいです。
- ・活動時間や活動場所は、時期によって変えてもらえると助かります。

顧問

- ・休日の超過勤務時間が大幅に減り、働き方改革につながりました。
- ・練習試合のとき、地域指導者が審判をしてくれて助かった。
- ・県南新人戦前にポジション練習をしてくれたり、練習メニューについてアドバイスをもらえてとても助かりました。
- ・初心者の子が体験会に参加したが、会員にはならなかった。みんなが楽しくできるような工夫があるとさらによい。

2.実証内容と成果③

広報資料

○令和6年8月からの実証事業を開始するにあたり、野球・サッカーそれぞれのクラブで体験会を設定した。左下チラシを配布・配信し、保護者・生徒へ周知をした。申し込みはQRコードから参加できるようにし、委託先と事務局で情報を共有した。

○令和7年度の会員募集として、右下チラシを中学生・小学6年生へ配布・配信した。



新入部員大募集!!
RYUGASAKI BASEBALL CLUB - WEST/EAST

無料体験会 案内

- 対象者 城ノ内中学校、龍ヶ崎中学校、長山中学校、中根台中学校、城西中学校に在籍する中学1年生と2年生の男女
- 日時 8月4日(日) 17:00 ~ 19:00
- 会場 たつのこスタジアム ※雨天決行
- 持ち物 運動ができる服装、スパイク、グローブ、タオル、飲み物
- その他 保護者の参観が可能です。事前のお問い合わせは、以下の専用フォームよりお願いいたします。

教室詳細

- 日時 毎週 土曜日または日曜日(主に日曜日) 17:00 ~ 19:00
- 会場 たつのこスタジアム スタジアムが使用できない際は、その他施設や学校施設の利用を予定
- その他 野球の専門指導者が指導します。トレーニング等の専門的指導あり。兼部活、兼クラブが可能です。

龍ヶ崎市が行う令和6年度活動地域移行に向けた実証事業の一環です

費用 0円 スポーツ保険 加入あり

運営：NPO法人 クラブ・ドラゴンズ

下記のQRコードより体験会申し込みができます

090-4002-2327



FC RYUGASAKI WEST/EAST
新入部員大募集!!

抜群の環境で成長できる!

龍ヶ崎市が行う令和6年度活動地域移行に向けた実証事業の一環です

費用 0円 スポーツ保険 加入あり

無料体験会 案内

- 対象者 城ノ内中学校、龍ヶ崎中学校、長山中学校、中根台中学校、城西中学校に在籍する中学1年生と2年生の男女
- 日時 8月4日(日) 17:00 ~ 19:00
- 会場 たつのこフィールド ※雨天決行
- 持ち物 運動ができる服装、スパイク、タオル、飲み物
- その他 保護者の参観が可能です

教室詳細

- 日時 毎週 土曜日または日曜日(主に土曜日) 17:00 ~ 19:00
- 会場 たつのこフィールド フィールドが使用できない際は、その他施設や学校施設の利用を予定
- その他 サッカーの専門指導者が指導します。トレーニング等の専門的指導あり。兼部活、兼クラブが可能です

運営：NPO法人 クラブ・ドラゴンズ

事前のお問い合わせはこちら 体験会申し込みはこちら

090-4002-2327

SASAERU



野球・水泳・サッカー
2025年START!

野球

対象：小学4～6年男女
日時：日曜9:00～10:00
場所：龍ヶ崎中学校校庭 or TOKIWAスタジアム
持ち物：野球グローブ、水筒、運動着、運動靴等

水泳

対象：年長～小学6年男女
日時：月曜・金曜
初級17:30～18:20
中上級18:30～19:20
場所：流通経済大学プール
持ち物：水着、タオル等

男子サッカー

対象：小学生男子
日時：土曜17:00～18:00
場所：流通経済大学龍ヶ崎フィールド(たつのこF)
持ち物：タオル、運動着/靴、(スパイク自由)等

女子サッカー

対象：年長～小学6年女子
日時：土曜or日曜 午前
(学年別に分かれて実施)
場所：流通経済大学構内
～4月開始予定で調整中～

1月より順次START!

体験・入会をご希望の方は、表面のQRコードよりお申込ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております！※電話申込は受付していません。

【体験会への参加啓発チラシ】

出典：NPO法人 クラブ・ドラゴンズ

【来年度 会員募集チラシ】

出典：NPO法人 クラブ・ドラゴンズ

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【野球体験会】



【サッカー体験会】



【学校部活動へ地域指導者派遣】



【顧問と地域指導者の連携強化】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

ガイドライン策定
協議会設置

受け皿団体や指
導者の選定、拠
点校の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和7年

地域クラブ活動
の開始
(10月から)

令和8年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会

●経過

関係機関へ協議会委員を委嘱し、その都度開催文書を配布し、出欠を確認した。

●実施にあたって生じた課題

1回目の協議会では、議案に対し様々な意見が出て話が集約しなかったため、2回目からは検討が必要な部分にポイントを当て、検討した。

●実施内容、工夫した点 等

協議会委員へ事前に議題を伝えておき、意見をもった上で協議会へ参加してもらうようにした。

●ステークホルダー

学校（校長・顧問）

●経過

校長会や教頭会へ参加して説明をしたり、顧問ヒアリングをしたり、市内全教職員に向けて全体研修の場で説明をしたりした。

●実施にあたって生じた課題

繰り返し説明をしても合意形成を図ることが難しく、度々学校を訪問し、説明をすることがあった。

●実施内容、工夫した点 等

各校の教頭先生と連絡を密にとり、日程調整を行った。校長先生方とは、教育委員会へ来訪時に個別に話す機会を設けた。

●ステークホルダー

地域クラブとなる移行先の団体

●経過

中学生を既に受け入れている団体からコンタクトをとり、休日の指導者として参加してもらえるよう説明をした。

●実施にあたって生じた課題

移行先の団体や指導者によっては、クラブの方針と部活動の方針に差があり、難色を示す団体も多くあった。

●実施内容、工夫した点 等

各団体の代表者と定期的に連絡をとり、その種目に関する情報（部員数・顧問名・専門委員長など）を網羅した種目ごとの資料を作成し、繰り返し打ち合わせを重ねた。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進計画（ロードマップ）



R6

- ・部活動の活動状況把握（生徒・保護者アンケート）
- ・ガイドライン作成
- ・野球部、サッカー部の実証事業開始（8月～）
- ・休日受け入れることができる地域クラブへのヒアリング
- ・運営団体の設置準備
- ・受益者負担の検討
- ・顧問、保護者へ説明
- ・部活動指導員の活用検討
- ・龍ヶ崎市地域クラブ活動移行推進協議会発足

R7

- ・地域クラブ中体連登録検討
- ・運営団体への参加募集
- ・地域クラブ活動状況の把握
- ・受け皿となる地域クラブとの連携
- ・地域クラブ指導者の確保
- ・全部活動での休日の部活動地域移行実証事業開始
（10月～休日15回）
- ・多様なスポーツ・文化芸術活動の環境整備

R8

- ・平日の部活動地域移行について検討
- ・財源確保の手法検討
- ・中体連の大会に地域クラブで参加
- ・平日まで移行できる地域クラブを視野に入れ、学校の部活動数の適正化
- ・学校施設の有効活用
- ・部費と地域クラブ運営費の比較

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 下妻市

自治体名：茨城県下妻市

担当課名：教育委員会指導課

電話番号：0296-44-0746

1.自治体の基本情報

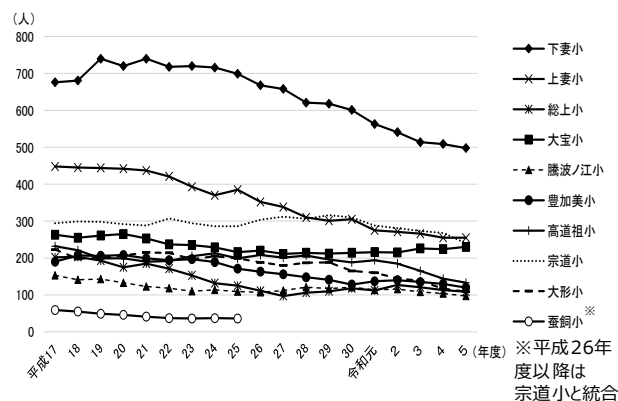
基本情報(R7.2.1現在)

面積	80.88 km ²
人口	41,363 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	1,031 人
部活動数	34 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

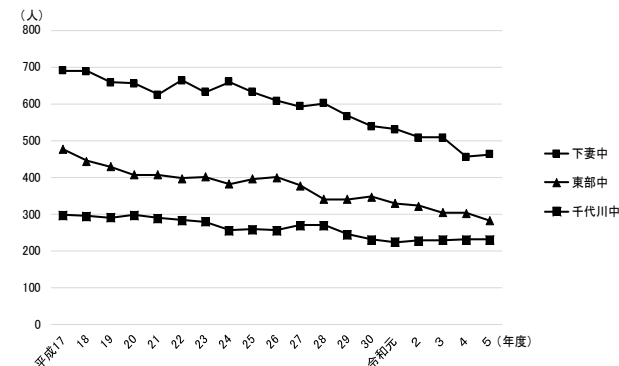
学校部活動の現状・持続可能性について

市立小中学校の児童生徒数は年々減少している。また、放課後や休日の過ごし方の多様化により、学校部活動に在籍する生徒数も減少し、今後、学校単位での部活動の維持が難しくなる状況にある。持続可能な部活動を維持するために、市単位のチーム編成を見越して取り組むとともに、学校と地域が連携し、スポーツに親しむ環境を整備することが必要である。



課題

持続可能な部活動の運営に向けて、部活動数の適正化、保護者や地域の方々を含む関係者に部活動を地域で行う必要性や有用性について十分に理解を得ること、人材や財源を確保することが課題としてあげられる。また、本市においては、総合的地域スポーツクラブ、プロスポーツクラブ、大学等がないため、受け皿となる運営団体の確保が難しい。地域の実情に応じた地域クラブ活動のモデルを構築する必要がある。

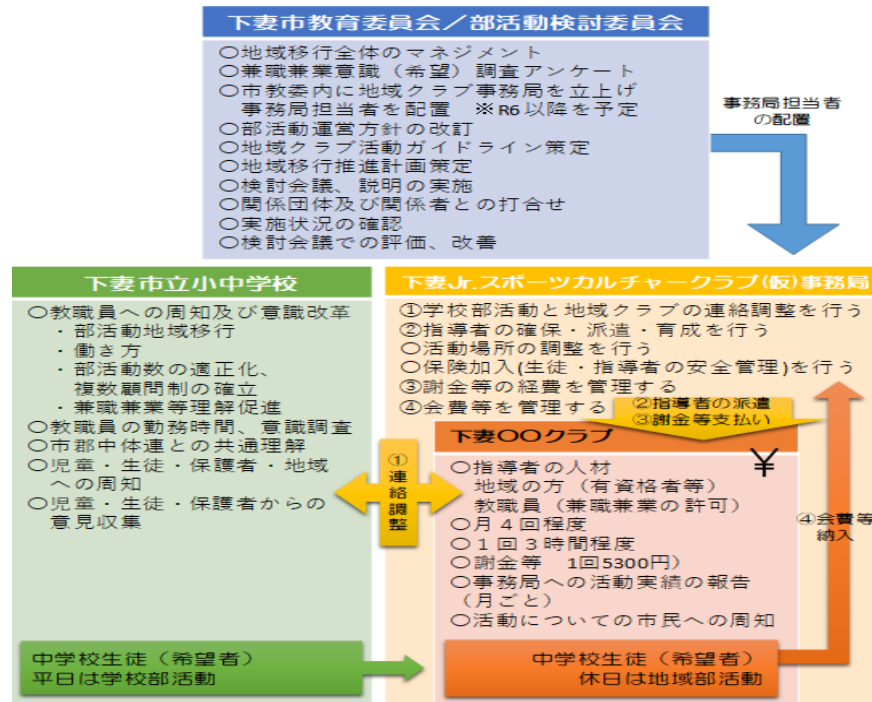


出典:下妻市教育委員会

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・事務局 ・指導者との調整
- ・部活動検討会議の実施
- ・学校へのヒアリング調査

◎首長部局

- ・財源の確保

年間の事業スケジュール

令和6年4月	部活動検討会議の実施
令和6年4月	事務局・指導者連絡会
令和6年8月	部活動検討会議の実施
令和7年1月	部活動検討会議の実施
令和7年1月	事務局・指導者連絡会
令和7年2月	生徒・部活動顧問アンケート実施
令和7年3月	成果報告書の作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	2 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
下妻ジュニア剣道クラブ	市	剣道	月 3 回／ 週 1 回	9:00～ 12:00	3 年 2 年 1 年	通年	市立体育館	2 人	2 人	月会費 0 円／ (市負担)	学校部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 新 1 年生見学会 （5 月ゴールデンウィーク）

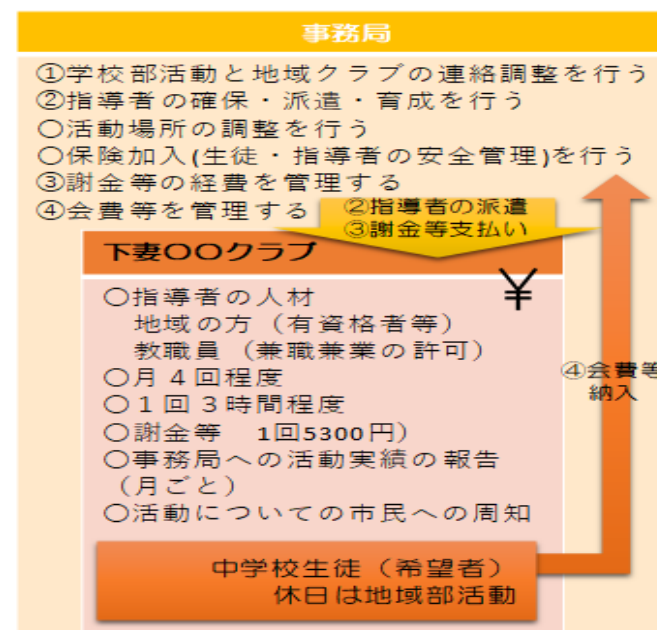
2.実証内容と成果

主な取組例

●下妻ジュニア剣道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	教育委員会指導課
期間と日数	4月1日～2月28日 月3回程度（など）
指導者の主な属性	下妻市スポーツ協会理事長・下妻市剣道連盟会長、部活動指導員
活動場所	市立体育館
主な移動手段	自転車または保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	0円 ＊全額市負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者2人：1,850円/年 1,200円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：指導者との連絡調整、活動予定作成、施設予約、検討委員会立案及び実行、地域移行に関する情報収集等を行う。

●主任指導者 2名

役割：実技指導、保護者との連絡調整を行う。

●運営補助者 2名

役割：指導者との連絡調整、謝金等支払い業務を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

学校と地域クラブ活動が適切に連携し、スポーツ活動における生徒にとって望ましい環境の構築を目指すための部活動検討会議を実施し、地域クラブ活動の在り方の検討を行った。統括コーディネーターを配置し、関係者との連携の中核とした取組を推進した。

また、事務局運営では、活動日程・場所の調整、保険加入、謝金等の支払いをはじめとした金銭の管理のしくみを構築した。

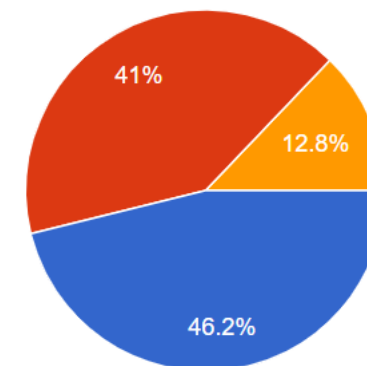
取組の成果

部活動検討会議において、地域クラブ活動の在り方や方向性を共有することができた。統括コーディネーターの配置により、円滑な連携ができた他、定期的なヒアリングや情報提供を通して、休日の部活動の地域移行に関する学校の意識が高まった。

また、怪我や緊急時の対応のため、3中学校の代表保護者が定期的に情報交換や協議をする場をもち、保護者の立場からもよりよいクラブ体制について検討していただけた。

参加した中学生47人を対象としたアンケートの結果、回答者の44.7%が地域クラブ活動への参加について「よかった」、42.1%が「どちらかといえばよかった」と回答した。「他の中学校の人達と練習ができ、良いところを真似して自分の成長に繋がれるから」等の理由が挙げられた。一方で、13.2%の生徒は、「人数が多くて快適に練習ができない」「自分にあった練習ができなかった」等の理由を挙げた。

Q.下妻ジュニア剣道クラブに参加してよかったですか？（生徒）



- 1 よかった
- 2 どちらかといえばよかった
- 3 よくなかった

出典:下妻市教育委員会

コーディネーターの具体的な動きの実績

関係者との連携の中核として取り組んだ結果、指導者と学校が地域クラブの在り方や方向性を共有することができた。こうしたことで、生徒にとって指導の一貫性が保たれ、安心して活動する環境を整備することにつながった。

今年度の成果をもとに、地域移行への具体的な助言を行ったことで、次年度に市立中学校の卓球部の休日の活動が、地域へ移行する予定である。

今後の課題

総合型地域スポーツクラブ、プロスポーツクラブ、大学等がないため、受け皿となる運営団体の確保が難しく、教育委員会内に事務局を設けた。行政主導の地域クラブ活動への移行する上で、複数のモデル構築に課題が残った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項①

指導者の確保

下妻市地域クラブ活動推進事業実施要項に則り、学校からの推薦により、指導者を確保した。剣道連盟会長及びすでに学校部活動で指導にあたっている部活動指導員を指導者として選定したため、生徒にとって、指導の一貫性が保たれ、安心して活動できる場となった。こうした指導者の選定により、学校部活動と地域クラブ活動の円滑な連携を目指した。

取組事項②

種目 剣道競技

資格有無

【指導者A】

- ・全日本剣道連盟 社会教育指導員 上級
- ・日本スポーツ協会 公認スポーツコーチングリーダー
- ・中学校武道必修化授業協力者
- ・剣道教士7段

【指導者B】

- ・剣道教士7段

指導者研修の内容

- ・生徒理解
- ・体罰・暴言・ハラスメント防止
- ・茨城県の部活動の現状と課題

受講者の声

教育的配慮事項やコンプライアンス等について、研修することができた。
よりよいクラブ運営のために、研修を活かしていきたい。

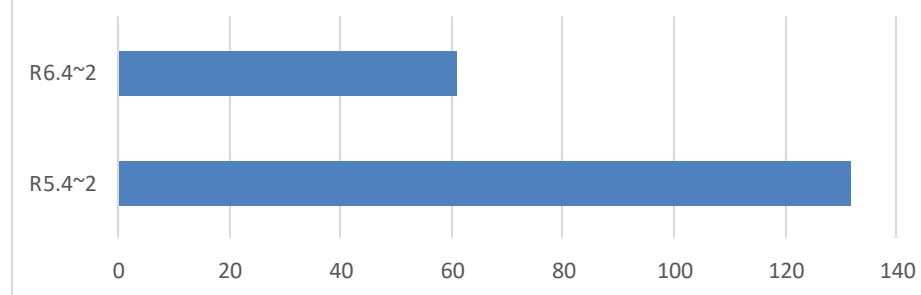
取組の成果

休日の部活動が地域に移行したことにより、教員の休日の部活動従事時間が減少した。教員が休日を休養や自己研鑽のために活用できるようになった。休日の地域クラブ活動で生徒が専門的な指導を受けられることで、部活動顧問の指導に対する精神的負担が減った。

今後の課題

指導者を2名配置しているが、不測の事態が生じた際、活動が実施できないことがあった。1クラブあたり、複数名の指導者の確保が課題である。地域の理解促進を図り、募集する必要があるが、教育的配慮や安全管理意識を有する指導者を確保する、または、それらに関する研修を定期的に実施することが、現時点の運営事務局の体制では困難である。

休日の部活動従事時間(A教諭)



出典:下妻市教育委員会

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動検討委員会での協議を通して、生徒にとって望ましいスポーツ環境の整備について協議を重ねることができた。令和5年度市地域クラブ活動実践モデル事業から、令和6年度実証事業へとつなげ、一つの地域クラブ活動体制を構築したことは大きな成果である。

統括コーディネーターの配置により、学校、地域クラブ、事務局が円滑に連携でき、把握した課題に対応することができた。

事務局運営に関しては、1年間の中で、保険加入や謝金等の支払いをはじめとした金銭の管理のしくみを整備することができた。

一方で、休日の部活動の段階的な地域移行への取組の中で、持続可能な地域クラブ活動の運営のために、指導者の確保の他、講師謝金、保険代、事務局費等の経費に対する財源が必要となる。今後、受益者負担について保護者の理解を得ていかなければならない。保護者や地域への啓発がさらに必要である。

●成果の評価

統括コーディネーターの配置により、ヒアリングや状況に応じた助言をすることで、市立3中学校の男女卓球部が地域移行に向けて準備を始めることになった。令和6年9月に保護者説明会の実施、10月合同練習会の実施を経て、令和7年8月頃から休日の部活動を地域クラブ活動へ移行する予定である。今年度の実証事業の成果をつなげることができた。

持続可能で安定した地域クラブ活動の運営が、指導者の質・量の確保につながる。地域クラブ活動に加入する生徒数によって、運営体制に支障がないように、令和7年度は市で財源の確保ができた。

●今後に向けて

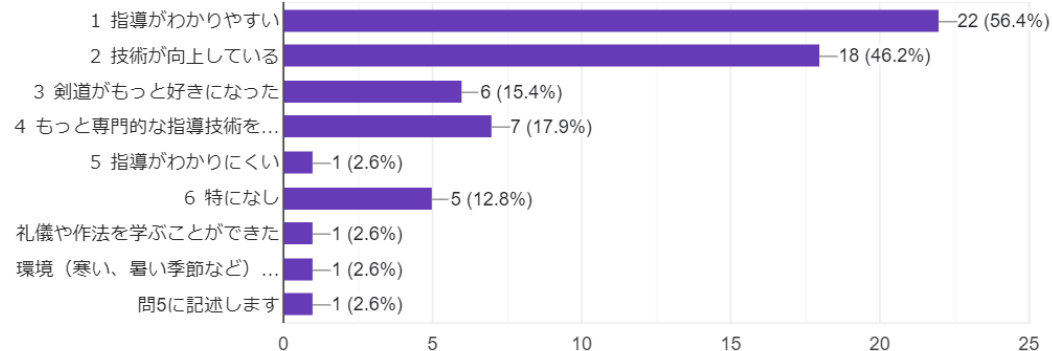
地域クラブ活動の持続的な体制づくりの構築には、多様な競技種目における地域指導者の確保が必要である。そのため、スポーツ団体等との連携が必要であることが改めて確認できたが、市内にそのような団体がないため、地域指導者を十分確保できる見通しが立たない。教員の兼職兼業を活用しなければならない現状である。

2.実証内容と成果②

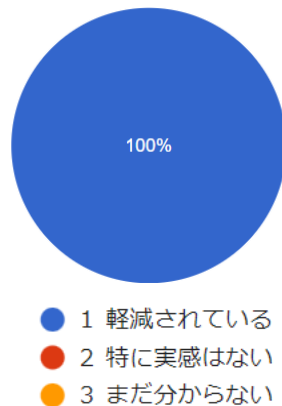
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

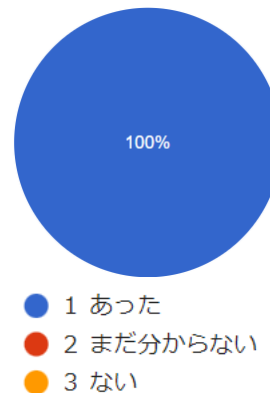
Q.下妻ジュニア剣道クラブで地域指導者の指導を受けて、どのように感じていますか？（生徒）



Q.休日に下妻ジュニア剣道クラブの活動があることで、部活動への負担感は軽減されていますか？（部活動顧問）



Q.生徒の様子や取組に変化はありますか？（部活動顧問）



出典:下妻市教育委員会

●参加者の声

中学生

いろんな学校の剣道仲間と、一緒に稽古ができて、お互いに悪いことや、いいところを知り、交流をひろめられました。指導してくださる先生方もいいところがあったら褒めてくれてうれしかったです。

中学生

指導者の人数を増やす等、練習の充実化を図っていただきたいと感じる。

部活動顧問

休日にしっかり休むことができるようになった。自分の職務に励むことができる。専門的な剣道の知識を教えていただいているので指導に対する負担が少ない。

部活動顧問

休日の指導が減ったことで、自己研鑽の時間にあてる時間が増えたことや専門的な指導が難しい場合、指導員に聞くよう促しており精神的な負担が減ったと感じているため。

2.実証内容と成果③

啓発資料

中学校入学説明会（12月）において、小学校6年生及び保護者に向けて、地域移行の現状及び地域クラブ活動について説明した。



部活動が変わります

令和6年度版

部活動は、生徒が学校の教室とは違った場面で活動することで、**人間的に成長したり、特技を発揮して活躍したり**することができる、とても大切な場です。しかし、現在までの部活動に対しては、文部科学省から以下のような課題が指摘されています。

- ◆生徒数の減少に伴い、**選択可能な部活動数が限られてしまうこと。**
- ◆休日を含め、**教師の長時間勤務の要因であること**

そのため、現在、スポーツ庁、文化庁から「**部活動を学校単位から地域単位の取組とする**」という方向が示されています。

*「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」 スポーツ庁・文化庁 R2.9.1

*「茨城県部活動の運営方針の改訂について」 茨城県教育委員会 R4.12.16

◎休日の部活動が地域移行するとどうなるの？

	学校部活動
運営主体	学校
指導者	学校の先生 部活動指導員
活動場所	主に学校の施設内
費用	部活動ごとに設定された部費を集金
保険	日本スポーツ振興センター（全員加入）



	休日の地域クラブ活動
運営主体	休日は地方公共団体等の運営する地域クラブ活動に所属して活動します。
指導者	地域にいる人材（専門的な指導が可能）に地域クラブ活動の指導を依頼します。
活動場所	学校の施設または地域の公共施設などを使って活動します。
費用	地域クラブ活動ごとに設定された活動費を集金します。
保険	参加する際は別途保険に加入します。

参考：茨城県教育委員会HP

地域クラブ活動Q&A

Q. 休日は地域クラブ活動で活動しますが、平日の部活動はどうなりますか？

A. 平日は各学校で活動します。その際は学校の顧問の先生が指導します。また、部員数が少なく、学校単独での活動が困難な場合は、複数の学校の生徒が1ヶ所に集まって活動することも想定しています。

Q. 地域クラブ活動の活動費はいくらですか？負担が大きいと参加できません。

A. 地域クラブ活動は、指導者の謝金も参加者が負担することになります。

Q. 休日の地域クラブ活動には必ず参加しなければいけませんか？

A. 地域クラブ活動は各自の希望により参加、不参加を選択することができます。学校の先生から参加を強制されることもありません。

Q. 地域クラブ活動の指導者は誰ですか？

A. 地域クラブ活動は原則的に地域の人材が指導を行います。ただし、学校の教員が指導を希望しており、かつ地域クラブ活動側も指導を希望する場合、教員に指導を依頼することができます。その場合、地域の人材と同様に謝金を支払うことになります。平日は学校の先生、土日は地域人材が指導する形が想定されますので、運営方針などは十分に打ち合わせをしながらすすめていきます。



Q. 地域クラブ活動になった場合、総体やコンクールなどの大会にはどのように参加しますか？

A. 地域クラブ活動が各種目における条件を満たしていれば、令和5年度より総体や新人戦に出場することができるようになりました。吹奏楽連盟においては、方向性が検討されています。部活動とクラブチームの両方に所属している生徒は、どちらか一方を選択することが想定されます。

Q. 下妻市の進捗状況は？

A. 下妻市では、令和4年9月に「部活動検討委員会」を発足し、休日の部活動の地域クラブ活動への移行について、検討を重ねております。また、令和6年1月より、地域クラブ活動実践モデル事業を立ち上げ、一部種目における地域クラブ活動の試行を開始しています。令和5年～7年度を改革集中期間として、段階的に進んでいくため、学校や地域によって、進捗状況に違いが生じます。

地域クラブ活動に関する質問、ご意見をお寄せください。

皆様の声を生かして、よりよい地域クラブ活動の仕組みを構築していきたいと考えています。

問い合わせ先
下妻市教育委員会指導課
電話：0296-43-2111
下妻市立〇〇中学校
電話：0296-〇〇-〇〇〇〇

2.実証内容と成果④

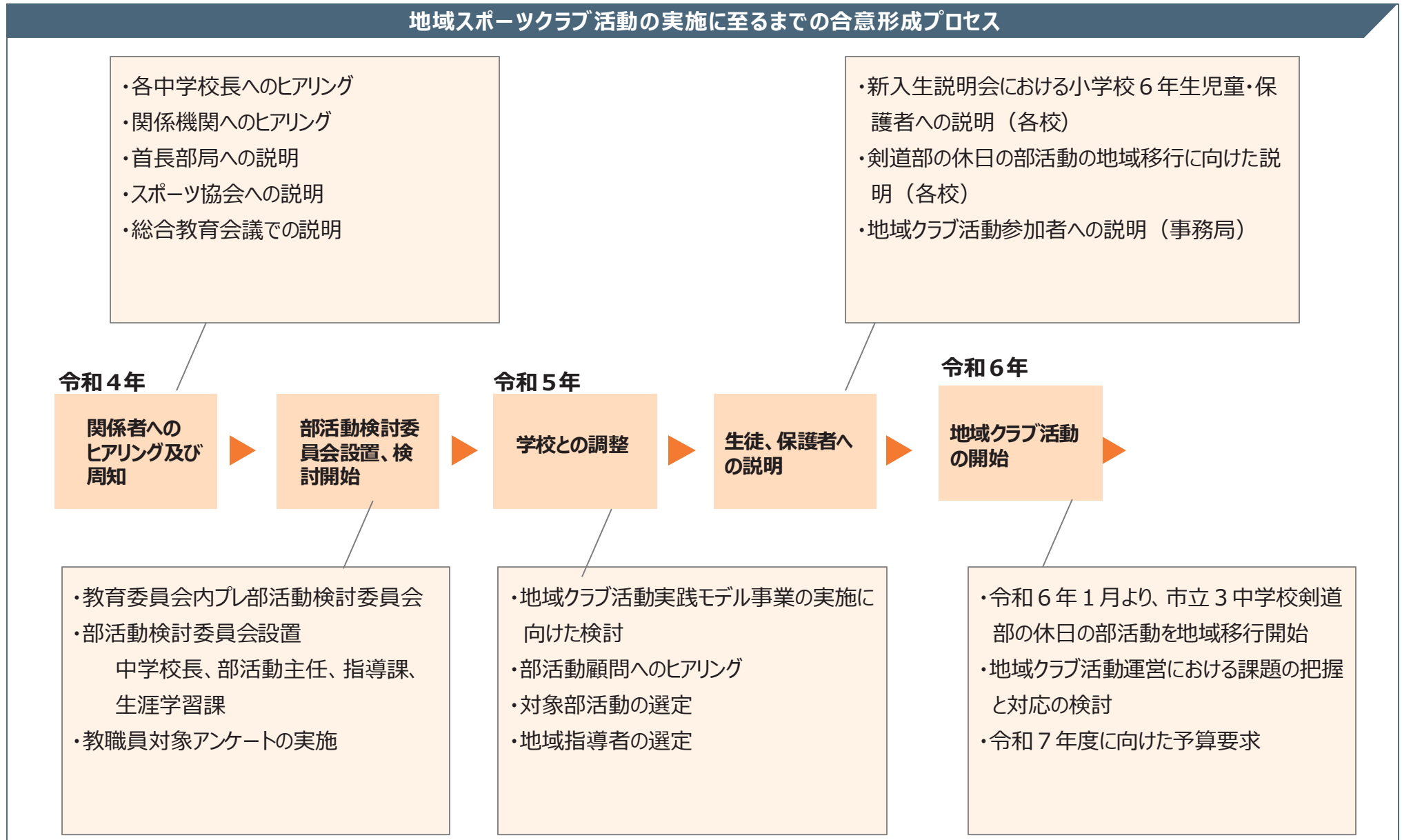
参考資料（活動写真）

【指導者による実技指導の様子】



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

